

2020年度入学者履修科目について

I	第I群 全学共通教育科目	1
1	授業内容について	1
2	履修方法と単位について	1
II	第I群 芸術教養課程科目（各学科共通授業科目）	2
1	芸術教養科目	2
2	外国語科目	4
3	保健体育科目	10
III	第II群（学科別授業科目）	11
I	写真学科	12
II	映画学科	14
III	美術学科	17
IV	音楽学科	19
V	文芸学科	22
VI	演劇学科	24
VII	放送学科	26
VIII	デザイン学科	29
IX	共通専門科目（各学科共通）	31
IV	第III群（各学科共通自由科目）	32
1	学芸員課程	32
2	司書教諭課程	33
3	司書課程	33
V	教職課程	34

I

全学共通教育科目

1 授業内容について

①「自主創造の基礎1」

大学で学ぶために必要とされる

- (1)「理解し伝える力」
- (2)「多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力」
- (3)「社会に貢献する姿勢」

等の能力や態度を身につけ、大学入学までの受動的な学習からの転換を図り、「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」能力を養い、大学生としての能動的な学修を導くことを目的としたグループワーク型の授業です。

②「自主創造の基礎2」

「自主創造の基礎1」で身につけた能力や態度を活用し、学科・学部の枠を超えたグループワークを行います。全学部の1年生が参加するグループワークである「ワールド・カフェ」を通して多様な価値観に触れます。様々なグループワークを通して視野を広げ、コミュニケーション力やリーダーシップ、協調性などを育むことを目的とした授業です。

③「日本を考える」

「自主創造の基礎1」「自主創造の基礎2」で身につけた学修スキルや能力をさらに発展させるため、問題発見型のグループワークを行います。歴史、文化、社会の現状・諸問題等を世界の中での日本という視点を通して学ぶことで、異文化及び異分野の多様な価値を受容し、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割、自らの専門性との関わりを意識します。今後の大学生活での学修目標の明確化やモチベーションの向上を目的とした授業です。

2 履修方法与単位について

- ① 初年次教育の科目となりますので、必ず1年次に履修し修得してください。
- ② 卒業に必要な**必修科目**となります。未修得の場合は、卒業が出来ません。
- ③ 開講学期や開講日程等については、年度によって異なる場合がありますので、4月のガイダンスやシラバス等で詳細を確認してください。

全学共通教育科目

授業科目	単位数	必修 (●)	授業年次
自主創造の基礎1	2	●	1
自主創造の基礎2	2	●	1
日本を考える	2	●	1



第Ⅰ群 芸術教養課程科目（各学科共通授業科目）

Ⅰ 芸術教養科目

- ① 芸術教養科目は、すべての科目のなかから14単位以上を選択履修しなければなりません。
- ② 芸術教養科目には、受講できる年次に制限を設けている科目があります。授業年次に表記されている年次から受講できます。それぞれの科目が受講できる年次に注意してください。
- ③ 芸術教養科目は、原則として全科目自由に選択できます。
- ④ 芸術教養科目は、半期完結の科目（前期または後期のみで授業を完結し、単位を個別に認定する）となります。
- ⑤ 授業科目の末尾にアラビア数字やローマ数字が付されている場合、原則として「Ⅰ」「Ⅲ」は前期開講科目を、また「Ⅱ」「Ⅳ」は後期開講科目を意味します（例外もあります）。例えば「知の探究Ⅰ」「芸術学Ⅲ」は前期開講科目、「知の探究Ⅱ」「芸術学Ⅳ」は後期開講科目となります。
- ⑥ 年度により開講しない科目があるので注意してください。
- ⑦ 芸術教養科目では、授業の内容がより予想しやすいようにサブタイトルを授業計画（シラバス）に併記する科目があります。各年度の授業担当者の授業内容が変われば、サブタイトルが変更される可能性があります。そのため、履修単位は学則上の授業科目名（以下の芸術教養課程科目一覧を参照）で扱われます。履修計画を立てるときには十分に注意してください。
- ⑧ 「Culture and Society」は外国人講師が担当し、すべて英語で行う授業です。

I 群 芸術教養課程科目（芸術教養科目）

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次	授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
知の探究Ⅰ	2			1	シナリオ分析	2			1
知の探究Ⅱ	2			1	メディア・リテラシーⅠ	2			1
ロゴスの探究Ⅰ	2			1	メディア・リテラシーⅡ	2			1
ロゴスの探究Ⅱ	2			1	東アジア世界の考古学Ⅰ	2			1
エチカの探究Ⅰ	2			1	東アジア世界の考古学Ⅱ	2			1
エチカの探究Ⅱ	2			1	形象文化論	2			1
歴史と文化	2			1	表演芸術論	2			1
文学の世界Ⅰ	2			1	メディア芸術論	2			1
文学の世界Ⅱ	2			1	芸術理論研究	2			3
法と政治	2			1	芸術特殊研究	2			2
日本国憲法	2		教職課程は必修	1	芸術総合講座Ⅰ	2			2
社会現象の解読Ⅰ	2			1	芸術総合講座Ⅱ	2			2
社会現象の解読Ⅱ	2			1	芸術総合講座Ⅲ	2			3
芸術文化の経済Ⅰ	2			1	芸術総合講座Ⅳ	2			3
芸術文化の経済Ⅱ	2			1	芸術総合講座Ⅴ	2			2
人間の心理Ⅰ	2			1	芸術総合講座Ⅵ	2			2
人間の心理Ⅱ	2			1	芸術総合講座Ⅶ	2			2
芸術と心理Ⅰ	2			1	芸術総合講座Ⅷ	2			3
芸術と心理Ⅱ	2			1	芸術総合講座Ⅸ	2			2
数学的思考の探究Ⅰ	2			1	芸術総合講座Ⅹ	2			2
数学的思考の探究Ⅱ	2			1	芸術と身体	1			1
情報Ⅰ	2		教職課程は どちらか一科目 必修	1	芸術理論演習Ⅰ	1			3
情報Ⅱ	2	1		芸術理論演習Ⅱ	1			3	
自然科学Ⅰ	2			1	芸術批評演習Ⅰ	1			3
自然科学Ⅱ	2			1	芸術批評演習Ⅱ	1			3
自然の探究Ⅰ	2			1	芸術リサーチ演習Ⅰ	1			3
自然の探究Ⅱ	2			1	芸術リサーチ演習Ⅱ	1			3
言葉のしくみ	2			1	Culture and Society	1			1
美学Ⅰ	2			1					
美学Ⅱ	2			1					
美学Ⅲ	2			1					
美学Ⅳ	2			1					
芸術学Ⅰ	2			1					
芸術学Ⅱ	2			1					
芸術学Ⅲ	2			1					
芸術学Ⅳ	2			1					
芸術の思想と表現Ⅰ	2			1					
芸術の思想と表現Ⅱ	2			1					
音楽と情報	2			1					
芸術文化と福祉	2			1					
色彩の基礎	2			1					
モード論	2			1					
日本の芸能史	2			1					
民俗芸能文化論	2			1					
アートと教育	2			1					

- ・授業年次は、履修可能最低学年となります。
- ・●は「必修科目」、■は「選択必修科目」、その他は「選択科目」。

2 外国語科目

【1. 概要】

① 卒業に必要な外国語の単位数について

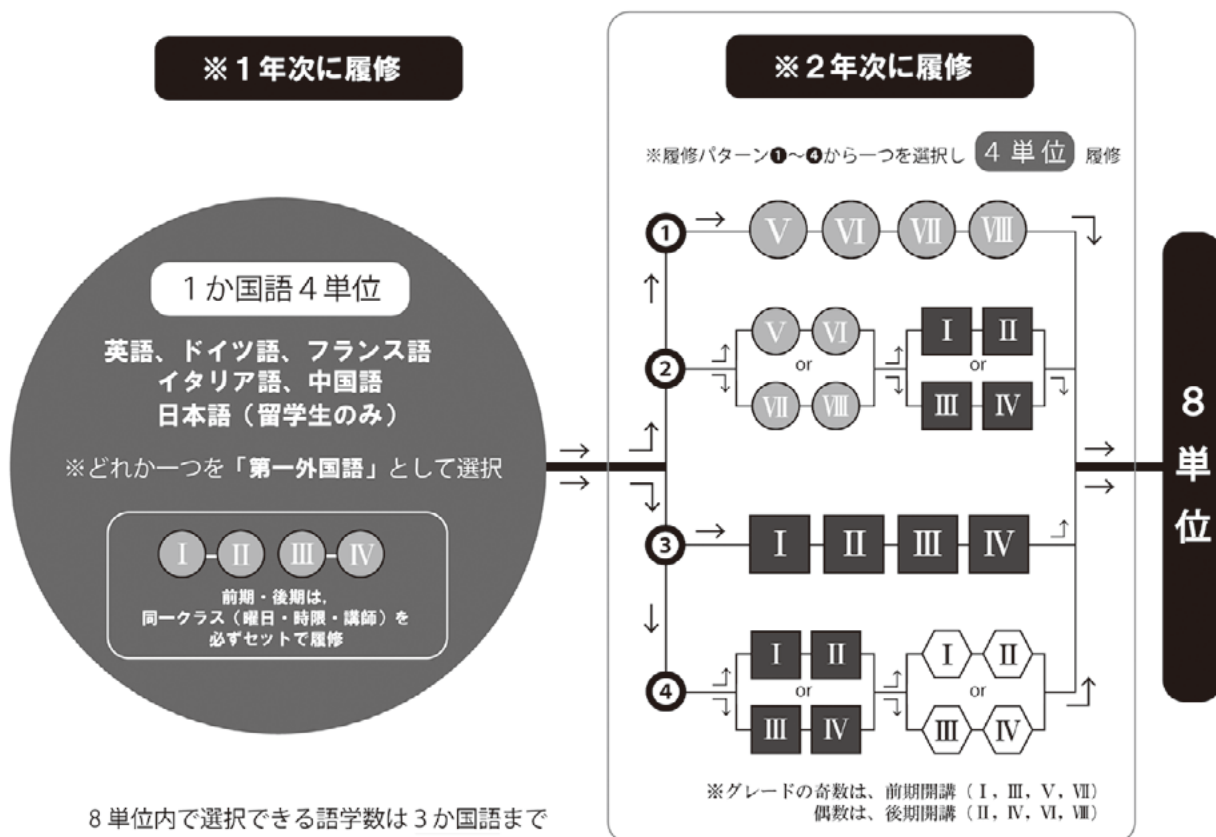
外国語は選択必修であり，卒業には「1か国語4単位を含む8単位以上」の修得が必要です。
各科目（各グレード）の単位は1単位（半期科目）となります。

1か国語4単位を含む8単位以上とは

○ I ⇒ 第1外国語

■ I ⇒ 第2外国語

◇ I ⇒ 第3外国語



履修パターンについて

選択必修外国語8単位の履修については，履修パターン①～④のうち1つを選択し履修してください。休学等により，やむを得ず選択した履修パターンでの履修が難しい場合は，事前に外国語研究室まで相談してください。

② 選択必修外国語の授業内容とグレードについて

各グレードの授業内容の設定は以下のとおりとなります。

グレード	授業内容
I、II（各半期1単位）	基礎（文法・リーディング）
III、IV（各半期1単位）	基礎（会話・リスニング）
V、VI（各半期1単位）	発展（文法・リーディング）
VII、VIII（各半期1単位）	発展（会話・リスニング）

【2. 外国語クラス名の表記】

① 英語科目のクラス名

(1) 語学名, グレード番号 (Ⅰ～Ⅷ), 学科記号, ハイフン, クラス記号 (a, b, …) からなります。

[例] 写真学科 (p) の a クラスの場合。

英語Ⅰ p-a 英語Ⅱ p-a 英語Ⅲ p-a 英語Ⅳ p-a …

(2) 但し当該学科に1クラスしかない場合, a, b, cはつかず, Ⅲm, Ⅳfのようになります。

(3) 学科記号は次のとおりです。

写真→「p」	映画→「c」	美術→「f」	音楽→「m」
文芸→「l」	演劇→「t」	放送→「b」	デザイン→「d」

(4) gクラス (外国人講師担当), eクラス (日本人講師担当) は, 学科指定はありません。

② 英語以外のドイツ語, フランス語, イタリア語, 中国語, 日本語科目のクラス名は, 語学名, グレード番号 (Ⅰ～Ⅷ) からなります。

例: イタリア語Ⅰ イタリア語Ⅱ イタリア語Ⅲ イタリア語Ⅳ …

【3. 履修上の諸注意について】

① 履修登録について

原則として, 前期と後期に「同一曜日・同一時限・同一クラス, 同一講師」で開講されているクラスをセットで履修登録してください。

なお, 履修登録がセットとなっていない場合, 原則として履修を認めないことがありますので注意してください。

○履修登録可能例:

月曜	1時限目						○セットのため履修可能
	科目・学期・単位			講師	学科・学年	教室	
	英語Ⅰ p-a	前	1	A先生	写1年	S-404	
	英語Ⅱ p-a	後	1	A先生	写1年	S-404	
	英語Ⅰ c-a	前	1	B先生	映1年	A-301	
	英語Ⅱ c-a	後	1	B先生	映1年	A-301	

○履修登録不可例:

月曜	1時限目						×セットではないため履修不可
	科目・学期・単位			講師	学科・学年	教室	
	英語Ⅰ p-a	前	1	A先生	写1年	S-404	
	英語Ⅱ p-a	後	1	A先生	写1年	S-404	
火曜	英語Ⅰ c-a	前	1	B先生	映1年	A-301	
	英語Ⅱ c-a	後	1	B先生	映1年	A-301	

② 1年次の履修方法について

1年次に選択必修語学 (英語, ドイツ語, フランス語, イタリア語, 中国語, 日本語) から一つの語学を選択し, 「1か国語4単位 (第一外国語Ⅰ～Ⅳ)」を必ず履修しなければなりません。

③ 2年次の履修方法について

1年次に履修した第一外国語以外の語学を履修する場合は、グレード「Ⅰ・Ⅱ（基礎文法・リーディング）」「Ⅲ・Ⅳ（基礎会話・リスニング）」から履修しなければなりません。

ただし、英語を2年次で初めて履修する場合は、「Ⅴ・Ⅵ（応用文法・リーディング）」「Ⅶ・Ⅷ（応用会話・リスニング）」から履修しても構いません。

④ 卒業に必要な選択必修8単位内の語学数について

8単位内の語学数は「3か国語」までとなります。4か国語を履修した場合は、卒業要件単位数124単位には含まれますが、選択科目としての外国語に必要な単位数8単位以上には含まれません。

⑤ 学科指定クラスと履修者制限について

英語のクラス（gクラスとeクラスを除く）は学科指定があります。

ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語はどのクラスでも全学科自由に履修できます。

履修希望者が多い場合は、選抜あるいは抽選を行う可能性がありますので、初回の授業時には必ず出席し、履修可能かどうか確認してください。

⑥ 再履修の方法について

英語を再履修する場合、授業期間開始前に必ず再履修登録しなければなりません。

ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語（留学生のみ）は、不合格になった科目と同じグレード（Ⅰ～Ⅷ）であれば、どのクラスでも再履修登録せずに履修できます。

⑦ gクラス（英語）の履修について

gクラス（英語）は、英語技能のいっそうの向上を目指す学生のために設けられたクラスであり、学科指定はなく、外国人講師が担当します。学科指定の英語クラスの代わりに履修することになり、Ⅰ～Ⅷの全部またはその一部をgクラスで履修することができます。

英語の再履修者（2年次生以上で、前年度までに、英語が不合格になった者）は登録できません。

なお、gクラスも学科指定同様、前期・後期と同一クラス（曜日・時限・講師）をセットで履修してください。

⑧ eクラス（英語）の履修について

eクラス（英語）は、英語技能の基礎固めを目指す学生のために設けられたクラスであり、学科指定はなく、日本人講師が担当します。

(1) 英語Ⅰ～Ⅳのeクラスについて（原則として1年次生を優先）

英語の学科指定クラスの代わりとして、履修することとなり、英語Ⅰ～Ⅳのうち前期・後期のセット履修でⅠ・ⅡあるいはⅢ・Ⅳの両方またはどちらかをeクラスで履修することができます。なお、Ⅰ・ⅡあるいはⅢ・Ⅳは各1クラスのみ開講のため、1年次生の履修を優先とします。

【受講できる学生の優先順位】

- a) 説明会に出席した者（必要な履修条件（成績状況や面談など）がありますので、ガイダンス期間等に行われる説明会に必ず出席してください）
- b) 1年次生は中学・高校の英文法・英会話を基本から学び直したいと希望する者
- c) 2年次生以上はⅠ～Ⅳのいずれかを不合格となった者

(2) 英語V～Ⅷのeクラスについて（原則として2年次生のみ対象）

英語の学科指定クラスの代わりとして、履修することとなり、英語V～Ⅷのうち前期・後期のセット履修でV・ⅥあるいはⅦ・Ⅷの両方またはどちらかをeクラスで履修することができます。

なお、V・ⅥあるいはⅦ・Ⅷは各1クラスのみ開講のため、原則として2年次生のみ履修できます。

【履修条件】

- ・2年次生のうち1年次にⅠ・ⅡあるいはⅢ・Ⅳを履修し、両方もしくは一方が不合格となった者
- ・説明会に出席した者（必要な履修条件（成績状況や面談など）がありますので、ガイダンス期間等に行われる説明会に必ず出席してください）

外国語科目（選択必修）

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次	授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
英語Ⅰ	1	■	※	1	イタリア語Ⅰ	1	■	※	1
英語Ⅱ	1	■		1	イタリア語Ⅱ	1	■		1
英語Ⅲ	1	■		1	イタリア語Ⅲ	1	■		1
英語Ⅳ	1	■		1	イタリア語Ⅳ	1	■		1
英語Ⅴ	1	■		2	イタリア語Ⅴ	1	■		2
英語Ⅵ	1	■		2	イタリア語Ⅵ	1	■		2
英語Ⅶ	1	■		2	イタリア語Ⅶ	1	■		2
英語Ⅷ	1	■		2	イタリア語Ⅷ	1	■		2
ドイツ語Ⅰ	1	■		1	中国語Ⅰ	1	■		1
ドイツ語Ⅱ	1	■		1	中国語Ⅱ	1	■		1
ドイツ語Ⅲ	1	■		1	中国語Ⅲ	1	■		1
ドイツ語Ⅳ	1	■		1	中国語Ⅳ	1	■		1
ドイツ語Ⅴ	1	■		2	中国語Ⅴ	1	■		2
ドイツ語Ⅵ	1	■		2	中国語Ⅵ	1	■		2
ドイツ語Ⅶ	1	■		2	中国語Ⅶ	1	■		2
ドイツ語Ⅷ	1	■		2	中国語Ⅷ	1	■		2
フランス語Ⅰ	1	■	1	日本語Ⅰ	1	■	1		
フランス語Ⅱ	1	■	1	日本語Ⅱ	1	■	1		
フランス語Ⅲ	1	■	1	日本語Ⅲ	1	■	1		
フランス語Ⅳ	1	■	1	日本語Ⅳ	1	■	1		
フランス語Ⅴ	1	■	2	日本語Ⅴ	1	■	2		
フランス語Ⅵ	1	■	2	日本語Ⅵ	1	■	2		
フランス語Ⅶ	1	■	2	日本語Ⅶ	1	■	2		
フランス語Ⅷ	1	■	2	日本語Ⅷ	1	■	2		

※1か国語4単位を含め8単位以上修得しなければならない。ただし、日本語は留学生のみ履修できる。

- ・授業年次は、履修可能最低学年となります。
- ・●は「必修科目」、■は「選択必修科目」、その他は「選択科目」。

【選択必修以外の外国語について】（3年次以上が対象）

「応用英語，実践外国語，韓国語，スペイン語，ラテン語」は選択必修外の外国語となり，卒業要件単位数124単位には含まれますが，選択必修科目外国語の単位数（1か国語4単位を含む8単位以上）には含まれません。

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
応用英語Ⅰ	1			3
応用英語Ⅱ	1			3
応用英語Ⅲ	1			3
応用英語Ⅳ	1			3
応用英語Ⅴ	1			3
応用英語Ⅵ	1			3
応用英語Ⅶ	1			3
応用英語Ⅷ	1			3
実践ドイツ語Ⅰ	1			3
実践ドイツ語Ⅱ	1			3
実践ドイツ語Ⅲ	1			3
実践ドイツ語Ⅳ	1			3
実践フランス語Ⅰ	1			3
実践フランス語Ⅱ	1			3
実践フランス語Ⅲ	1			3
実践フランス語Ⅳ	1			3

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
実践イタリア語Ⅰ	1		} 留学生のみ履修 できる。	3
実践イタリア語Ⅱ	1			3
実践中国語Ⅰ	1			3
実践中国語Ⅱ	1			3
実践日本語Ⅰ	1			3
実践日本語Ⅱ	1			3
韓国語Ⅰ	1			3
韓国語Ⅱ	1			3
スペイン語Ⅰ	1			3
スペイン語Ⅱ	1			3
ラテン語Ⅰ	1		3	
ラテン語Ⅱ	1		3	

- ・授業年次は，履修可能最低学年となります。
- ・●は「必修科目」，■は「選択必修科目」，その他は「選択科目」。

【単位認定科目について】

海外語学研修や外国語検定試験により単位認定を申請することができます。

認定単位数は年間登録単位数に含まれます。また，卒業所要単位に含まれますが，選択必修外国語科目の単位数（1か国語4単位を含む8単位以上）には含まれません。

- ※ 認定科目の成績評価は「N」となります。
- ※ 同じ科目名で再度，単位認定を申請することはできません。
- ※ 申請方法等の詳細については掲示等にてお知らせします。

単位認定科目

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
海外語学研修Ⅰ	2			
海外語学研修Ⅱ	2			
海外語学研修Ⅲ	1			
海外語学研修Ⅳ	1			
検定英語	2			

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
検定ドイツ語	2			
検定フランス語	2			
検定イタリア語	2			
検定中国語	2			

【海外語学研修の単位認定について】

下記の海外留学プログラム等を利用して留学・海外研修に参加し、所定の成績を修めた者は、履修科目の講義内容・講義時間などを勘案した上で、「海外語学研修」として、単位認定できる場合があります。

海外留学プログラム	
①	日本大学の募集する留学・海外研修
	<海外交換・派遣留学制度>
	<短期海外研修>
	(1) ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジサマースクール (イギリス) (2) エリザベスタウン・カレッジサマースクール (アメリカ) (3) オーストラリア・スプリングスクール
②	芸術学部の募集する留学
	(1) ワシントン州立大学サマースクール (2) マイッツ美術大学
③	認定留学

※ プログラムについては変更となる場合があります。

※ 原則として、海外語学研修Ⅰ～Ⅳの順に認定となります。

※ ワシントン州立大学サマースクールについては、「体育実技」(1単位)も単位認定できるプログラムです。

※ 海外交換・派遣留学制度、認定留学については、上記の他に、本学部の科目に認定できる場合があります。

【外国語検定試験の単位認定について】

英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語及び中国語検定試験等の結果が、所定のレベルに達した者は、以下の単位認定基準に基づき単位認定を申請することができます。

<単位認定基準>

外国語科目	試験の種類	レベル	認定科目名	認定単位数
英 語	実用英語技能検定 (英検)	2級以上	検 定 英 語	2 単位
	TOEIC (Listening & Reading) ※ 芸術教養課程主催の「TOEIC IPテスト」を含む	500点以上		
	TOEFL iBT	52点以上		
	本部主催の「TOEFL ITP テスト」	470点以上		
	IELTS	4.5点以上		
ド イ ツ 語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	3級以上	検 定 ド イ ツ 語	2 単位
フ ラ ン ス 語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	3級以上	検 定 フ ラ ン ス 語	2 単位
イ タ リ ア 語	実用イタリア語検定試験 (伊検)	3級以上	検 定 イ タ リ ア 語	2 単位
中 国 語	中国語検定試験 (中検)	3級以上	検 定 中 国 語	2 単位
	漢語水平考試 (HSK)	4級以上		

※ 「TOEIC」・「TOEFL iBT」・「TOEFL ITPテスト」・「IELTS」については、認定申請日を基準として、2年以内のスコアのみ有効となります。

3 保健体育科目

- ① 保健体育科目は、講義科目（2単位）と実技科目（1単位）があり、いずれも必修科目です。
- ② 講義科目は、担当者により内容が異なります。内容については、各自シラバスで確認してください。原則として自由に選択できますが、教室の定員等により人数を調整する場合があります。
- ③ 実技科目は、必修科目の他に1種目1単位として、最大5単位まで選択科目として単位を修得することができ、それらは卒業単位数に含まれます。ただし、一度単位を修得した種目（競技）は、担当者や年度が変わっても同じ種目（競技）を履修することはできません。
- ④ 実技科目は、江古田校舎で開講する授業の他に、所沢校舎や合宿形式で行う夏期または冬期集中授業があります。開講種目は年度によって変更する場合がありますので、シラバスで確認してください。
- ⑤ 実技科目については、受講生の安全確保および施設や用具の関係により、人数調整を行う場合があります。
- ⑥ 講義科目、実技科目の登録手続きは、4月の申込期間に行います。後期に開講される講義科目および実技科目も、4月に登録手続きを行い決定します。そのため、後期からの受講曜日、種目の変更、追加はできないので、履修計画を立てる際には注意してください。なお、無断で決定外時間の授業を履修、受講しても単位認定はできません。
- ⑦ 実技科目を受講する場合は、スポーツウェア（Tシャツのみ指定）、スポーツシューズを着用してください。また、トレーニングルームで行う種目を履修する場合は、室内専用シューズを着用してください。
- ⑧ 実技科目の、夏期および冬期に行う集中授業は、受講に伴い別途受講費用がかかるものもあるので注意してください。
- ⑨ 実技科目を受講するために、健康診断は必ず受診してください。また、日ごろからの体調管理には十分気を付けてください。

I 群 芸術教養課程科目（保健体育科目）

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
保健体育科目				
健康・スポーツ科学	2	●		1
体育実技Ⅰ	1	●		1
体育実技Ⅱ	1			1
体育実技Ⅲ	1			1

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
体育実技Ⅳ	1			1
体育実技Ⅴ	1			1
体育実技Ⅵ	1			1

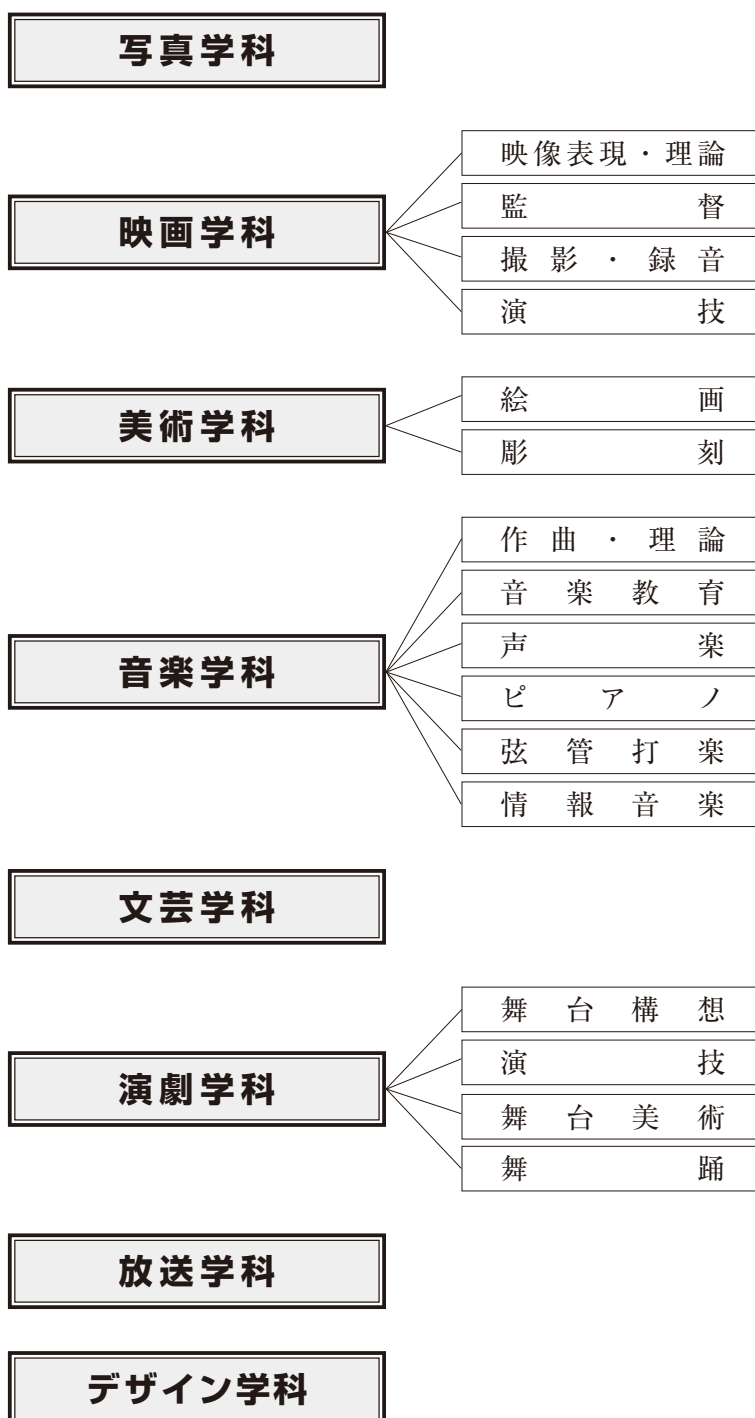
- ・ 授業年次は、履修可能最低学年となります。
- ・ ●は「必修科目」、その他は「選択科目」。



第Ⅱ群（学科別授業科目）

- 1 学科別授業科目は所属学科開講科目のうち必修科目・選択必修科目・選択科目、卒業論文（制作・演奏・作品・研究）、共通専門教育科目を含み、合計58単位以上を履修、修得しなければなりません。
- 2 学科別授業科目は、理論・歴史部門、研究部門、表現技術部門に分けられています。
- 3 学科別授業科目には学科あるいはコースにより必修・選択必修指定の科目があり、また、履修上いくつかの制約が設けられている科目もあるので十分注意してください。なお、その詳細は学科ごとの履修要項に示されています。

学科(コース) 一覧



I 写真学科

★学科カリキュラムの特徴★

写真学科の専門科目は必修・選択各科目とも教育効果を考えて受講可能年次の指定があります。受講にあたってはその指定に従い、順次受講することが重要です。

特に、写真基礎演習Ⅰ・写真基礎演習Ⅱ・写真基礎演習Ⅲ・ゼミナールは、写真学科の根幹をなす科目であり、1年次から順次受講をしていくのですが、それぞれの学年で必ず単位修得することを心がけてください。4年次生は指導教員に卒業論文・制作の助言を受け、適切な指導の下に各自、論文・制作に十分な成果を上げるように配慮してください。

また、写真学科にコースはありません。各自が将来の方向性や表現について考慮し、必修・選択必修科目以外に必要な科目を受講して下さい。

★履修上の諸注意★

- ① 各年度ガイダンス時に配布される写真学科履修要項にて必修・選択必修・選択科目をよく確認し、履修してください。
- ② 科目によって、学生証番号等により指定された前期・後期を受講して下さい（ガイダンス時に指定）。
また希望者多数の選択科目についてはガイダンス時に受講希望者を確認し、調整等を行います。
- ③ 1年次「写真基礎演習Ⅰ」・「写真技術Ⅰ」・「語学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」・「健康・スポーツ科学」、2年次「写真基礎演習Ⅱ」・「語学Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ」の受講については、新年度ガイダンス時に示します。
- ④ 写真学科では積極的にGPA制度を活用しています。（GPAの高さが基準となります。）
 - ・2年次の写真基礎演習Ⅱのクラス選択の人数調整の参考にします。
 - ・3年次の写真基礎演習Ⅲのクラス選択
 - ・4年次のゼミナールのクラス選択
 - ・希望者多数の選択科目についての選抜
写真技術Ⅳ（サイエンスフォト）、写真技術Ⅴ（フォト・プレゼンテーション）、
写真表現Ⅰ（広告写真）、写真表現Ⅴ（デザイン手法）、写真表現Ⅵ（DSLRムービー）、
インターンシップ など
- ⑤ 卒業には規定の履修条件を満たし、専門科目58単位以上を修め、総単位数124単位以上が必要です。なお、3年以上在学し、指定された必修科目を含め、84単位以上修得しなければ「卒業見込み」となりません。「卒業見込み」とならない場合は、卒業制作や卒業論文の提出・教職課程での教育実習の登録・卒業見込証明書の発行・卒業試験の受験などが受けられません。
- ⑥ 写真作家作品研究Ⅰ～Ⅵは3科目選択必修になります。Ⅰ～Ⅵのうちから3科目選択してください。
- ⑦ 履修上不明な点は速やかに学科学務委員の教員か、基礎クラス及びゼミナールの教員に相談してください。

II 群 学科別授業科目 (写真学科)

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
A 理論・歴史部門				
写真芸術学Ⅰ	2	●		3
写真芸術学Ⅱ	2	●		3
写真史Ⅰ	2	●		1
写真史Ⅱ	2	●		1
イメージングプロセス論Ⅰ	2	●		1
イメージングプロセス論Ⅱ	2	●		1
写真光学	2	●		1
カメラメカニズム	2			2
写真色彩学概論	2	●		1
写真印刷	2			3
B 研究部門				
写真作家作品研究Ⅰ	2	■	3科目選択必修 Ⅰ～Ⅵのうち、3 科目以上選択し てください。	2
写真作家作品研究Ⅱ	2	■		2
写真作家作品研究Ⅲ	2	■		2
写真作家作品研究Ⅳ	2	■		2
写真作家作品研究Ⅴ	2	■		2
写真作家作品研究Ⅵ	2	■		2
写真表現研究Ⅰ	2			3
写真表現研究Ⅱ	2			3
写真表現研究Ⅲ	2			3
写真表現研究Ⅳ	2			3
写真表現研究Ⅴ	2			2
写真表現研究Ⅵ	2			3
写真表現研究Ⅶ	2			3
写真表現研究Ⅷ	2			3
写真特別講座Ⅰ	2			2
写真特別講座Ⅱ	2			1
C 表現技術部門				
写真技術Ⅰ	2			1
写真技術Ⅱ	2			3
写真技術Ⅲ	2			3
写真技術Ⅳ	2			3
写真技術Ⅴ	2			2
写真技術Ⅵ	2			3
写真表現Ⅰ	4			3
写真表現Ⅱ	2			3
写真表現Ⅲ	2			2
写真表現Ⅳ	2			3
写真表現Ⅴ	2			3
写真表現Ⅵ	2			3
インターンシップ	2			3
C 表現技術部門				
写真基礎演習Ⅰ	6	●		1
写真基礎演習Ⅱ	6	●		2

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
写真基礎演習Ⅲ	4	●		3
ゼミナール	4	●		4
論文・制作特殊研究	2	●		4
卒業論文・制作	8	●		4

- ・ 授業年次は、履修可能最低学年となります。
- ・ ●は「必修科目」、■は「選択必修科目」、その他は「選択科目」。

II 映画学科

1 映画学科では、履修する主要科目の違いによって以下のコースに分かれています。

映像表現・理論コース

監督コース

撮影・録音コース

演技コース

2 映画学科における受講方法等

- ① 学科別授業科目は映画学科専門科目から卒業までに58単位以上修得しなければならず、なおかつその中に各年次、各コースごとに指定された必修科目すべてが含まれていなければなりません。
- ② 映画学科専門科目のうち、履修方法が変則的な科目の受講要領は以下の通りです。
 - (1) 映像表現・理論、映画演出、映画技術、映画演技実習の各科目はそれぞれⅠ～Ⅵ（映画演技実習の場合のみ映画演技基礎Ⅰ・Ⅱを修得した後のⅠ～Ⅳ）に設定し、開講されていますが、これを順次履修することになります。不合格者の上級科目登録は認めません。
 - (2) 撮影・録音コースの撮影研究Ⅰ・撮影研究Ⅱ・録音研究Ⅰ・録音研究Ⅱは、この中から2科目（4単位）以上、準選択必修科目として優先的に修得してください。
 - (3) 映画演技実習の実施内容には、試演会及び映画演出・卒業制作の作品に出演することが含まれています。
 - (4) 演技コースの発声、音楽、日舞、洋舞の履修方法は、以下の通りです。
 - ・発声Ⅰは、準必修科目となるので、優先的に修得してください。
 - ・発声Ⅱ～Ⅵ、音楽Ⅰ～Ⅵはこの中から7科目（7単位）以上、準選択必修科目として優先的に修得してください。日舞Ⅰ～Ⅵ、洋舞Ⅰ～Ⅵは、この中から8科目（8単位）以上、準選択必修科目として優先的に修得してください。
 - (5) 演技コースの学生は、演劇学科開講科目で受講可能な科目をできるだけ修得することが望まれます。
 - (6) コース別の欄に●印（必修科目）、○印（準必修科目）のある科目は、指定の授業年次に必ず履修し単位を修得してください。

Ⅱ群 学科別授業科目 (映画学科)

授業科目	単位数	コース指定				履修方法	授業年次	授業科目	単位数	コース指定				履修方法	授業年次
		映表理	監督	撮録	演技					映表理	監督	撮録	演技		
A 理論・歴史部門															
映画芸術学Ⅰ	2	●	●	●	●	映表理準必修	1	映画ビジネスⅠ	2					2	
映画芸術学Ⅱ	2	●	●	●	●		1	映画ビジネスⅡ	2					2	
映画と諸芸術Ⅰ	2						3	映画ビジネスⅢ	2					3	
映画と諸芸術Ⅱ	2						3	映画ビジネスⅣ	2					3	
映像概論	2	○					1	映像特別講座Ⅰ	2					3	
映像心理学Ⅰ	2						2	映像特別講座Ⅱ	2					3	
映像心理学Ⅱ	2						2	C 表現技術部門							
日本映画史Ⅰ	2	●	●	●	●		1	映像表現・理論Ⅰ	3	●			映表理必修	1	
日本映画史Ⅱ	2						1	映像表現・理論Ⅱ	3	●			映表理必修	1	
外国映画史Ⅰ	2	●	●	●	●		2	映像表現・理論Ⅲ	3	○			映表理準必修	2	
外国映画史Ⅱ	2						2	映像表現・理論Ⅳ	3	○			映表理準必修	2	
外国映画史Ⅲ	2						3	映像表現・理論Ⅴ	3	○			映表理準必修	3	
外国映画史Ⅳ	2						3	映像表現・理論Ⅵ	3	○			映表理準必修	3	
映画理論基礎	2	○					1	映画基礎演習Ⅰ	1					1	
前衛映画史Ⅰ	2						3	映画基礎演習Ⅱ	1					1	
前衛映画史Ⅱ	2						3	映画演出論Ⅰ	2					3	
ドキュメンタリー映画史Ⅰ	2						3	映画演出論Ⅱ	2					3	
ドキュメンタリー映画史Ⅱ	2						3	映画演技論Ⅰ	2					3	
							映画演技論Ⅱ	2					3		
B 研究部門							映画音楽Ⅰ	2			○	準必修(録音のみ)	3		
シナリオ論Ⅰ	2	●	●	●	●	1	映画音楽Ⅱ	2					3		
シナリオ論Ⅱ	2					1	映画技術論Ⅰ	2					3		
映画作品研究Ⅰ	2					3	映画技術論Ⅱ	2					3		
映画作品研究Ⅱ	2					3	センシトメトリーⅠ	2			○	撮録準必修	2		
映画鑑賞批評Ⅰ	2					1	センシトメトリーⅡ	2					2		
映画鑑賞批評Ⅱ	2					1	映画演技研究Ⅰ	1					3		
作品批評演習Ⅰ	2					3	映画演技研究Ⅱ	1					3		
作品批評演習Ⅱ	2					3	音響基礎	2			○	撮録準必修	2		
映画文献研究Ⅰ	2					3	電気基礎	2			○	撮録準必修	2		
映画文献研究Ⅱ	2					3	映画批評研究Ⅰ	2					2		
映画特講Ⅰ	2					3	映画批評研究Ⅱ	2					2		
映画特講Ⅱ	2					3	映画理論演習	2					3		
映画特講Ⅲ	2					3	シナリオ創作Ⅰ	1					3		
映画特講Ⅳ	2					3	シナリオ創作Ⅱ	1					3		
映画特講Ⅴ	2					3	シナリオ基礎	2	○			映表理準必修	1		
映画特講Ⅵ	2					3	シナリオ演習Ⅰ	2					2		
映画特講Ⅶ	2					3	シナリオ演習Ⅱ	2					3		
映画特講Ⅷ	2					3	映画演出Ⅰ	3		●		監督必修	1		
映画特講Ⅸ	2					3	映画演出Ⅱ	3		●		監督必修	1		
映画特講Ⅹ	2					3	映画演出Ⅲ	4		○		監督準必修	2		
映像企画発想論Ⅰ	2					3	映画演出Ⅳ	4		○		監督準必修	2		
映像企画発想論Ⅱ	2					3	映画演出Ⅴ	4		○		監督準必修	3		
映像メディア論Ⅰ	2					3	映画演出Ⅵ	4		○		監督準必修	3		
映像メディア論Ⅱ	2					3	映画演出基礎Ⅰ	2		○		監督準必修	1		

授業科目	単位数	コース指定				履修方法	授業年次	
		映表理	監督	撮録	演技			
映画演出基礎Ⅱ	2						1	
演技指導演習Ⅰ	2						2	
演技指導演習Ⅱ	2						3	
映画演技基礎Ⅰ	1				●	演技必修	1	
映画演技基礎Ⅱ	1				●	演技必修	1	
映画演技実習Ⅰ	1				○	演技準必修	2	
映画演技実習Ⅱ	1				○	演技準必修	2	
映画演技実習Ⅲ	1				○	演技準必修	3	
映画演技実習Ⅳ	1				○	演技準必修	3	
発声Ⅰ	1				○	演技準必修	1	
発声Ⅱ	1				□	演技コース 卒業までに 発声Ⅱ～ 音楽Ⅵのうち 7単位を 準選択必修	1	
発声Ⅲ	1				□		2	
発声Ⅳ	1				□		2	
発声Ⅴ	1				□		3	
発声Ⅵ	1				□		3	
音楽Ⅰ	1				□		1	
音楽Ⅱ	1				□		1	
音楽Ⅲ	1				□		2	
音楽Ⅳ	1				□		2	
音楽Ⅴ	1				□		3	
音楽Ⅵ	1				□		3	
日舞Ⅰ	1				□		演技コース 卒業までに 日舞Ⅰ～ 洋舞Ⅵのうち 8単位を 準選択必修	1
日舞Ⅱ	1				□			1
日舞Ⅲ	1				□			2
日舞Ⅳ	1				□	2		
日舞Ⅴ	1				□	3		
日舞Ⅵ	1				□	3		
洋舞Ⅰ	1				□	1		
洋舞Ⅱ	1				□	1		
洋舞Ⅲ	1				□	2		
洋舞Ⅳ	1				□	2		
洋舞Ⅴ	1				□	3		
洋舞Ⅵ	1				□	3		
映画技術基礎Ⅰ	2			○		撮録準必修		1
映画技術基礎Ⅱ	2							1
映画技術Ⅰ	3		●			撮録必修	1	
映画技術Ⅱ	3		●			撮録必修	1	
映画技術Ⅲ	4		○			撮録準必修	2	
映画技術Ⅳ	4		○			撮録準必修	2	
映画技術Ⅴ	4		○			撮録準必修	3	
映画技術Ⅵ	4		○			撮録準必修	3	

授業科目	単位数	コース指定				履修方法	授業年次
		映表理	監督	撮録	演技		
撮影研究Ⅰ	2			□		2科目 準選択必修	2
撮影研究Ⅱ	2			□			3
録音研究Ⅰ	2			□			2
録音研究Ⅱ	2			□			3
映画編集	2					映表理準必修	2・3
映像技術基礎	2	○					1
映像メディア演習	2						2
映像メディア実習	2						2
アニメーションⅠ	2						2
アニメーションⅡ	2						2
アニメーション研究Ⅰ	2						3
アニメーション研究Ⅱ	2						3
メディアアート概論	2						2
メディアアート演習	2						2
CGⅠ演習Ⅰ	2						3
CGⅠ演習Ⅱ	2						3
制作演習Ⅰ	1						2
制作演習Ⅱ	1						2
制作演習Ⅲ	1					3	
制作演習Ⅳ	1					3	
総合制作演習Ⅰ	1					4	
総合制作演習Ⅱ	1					4	
映画技術演習	1					1	
映画撮影演習	2					2	
卒業論文・制作・研究	8	●	●	●	●	4	

・授業年次は、履修可能最低学年となります。

・●は「必修科目」、○は「準必修科目」、□は「準選択必修科目」、その他は「選択科目」。

Ⅲ 美術学科

美術学科 履修方法について

美術学科では、履修する主要科目の違いによって以下のコース・専攻に分かれています。

- ・ 絵画コース（絵画専攻），絵画コース（版画専攻）
- ・ 彫刻コース（彫刻専攻），彫刻コース（地域芸術専攻）

1 各コースの履修方法について

① 絵画コース（絵画専攻）について

1年次に絵画Ⅰ（前期2単位）・絵画Ⅱ（後期5単位），2年次には絵画Ⅲ（前期5単位）・絵画Ⅳ（後期5単位），3年次には絵画Ⅴ（前期5単位）・絵画Ⅵ（後期5単位），4年次は絵画Ⅶ（前期5単位）・絵画Ⅷ（後期5単位），卒業論文・制作（8単位）をそれぞれ履修してください。

② 絵画コース（版画専攻）について

1年次に版画Ⅰ（前期2単位）・版画Ⅱ（後期5単位），2年次に版画Ⅲ（前期5単位）・版画Ⅳ（後期5単位），3年次に版画Ⅴ（前期5単位）・版画Ⅵ（後期5単位），4年次は版画Ⅶ（前期5単位）・版画Ⅷ（後期5単位），卒業論文・制作（8単位）をそれぞれ履修してください。

③ 彫刻コース（彫刻専攻）について

1年次に彫刻基礎Ⅰ（前期2単位）・彫刻基礎Ⅱ（後期5単位），2年次には彫刻Ⅰ（前期5単位）・彫刻Ⅱ（後期5単位），3年次は彫刻Ⅲ（前期5単位）・彫刻Ⅳ（後期5単位），4年次は彫刻応用Ⅰ（前期5単位）・彫刻応用Ⅱ（後期5単位），卒業論文・制作（8単位）をそれぞれ履修してください。

④ 彫刻コース（地域芸術専攻）について

1年次に彫刻基礎Ⅰ（前期2単位）・彫刻基礎Ⅱ（後期5単位），2年次には地域芸術Ⅰ（前期5単位）・地域芸術Ⅱ（後期5単位），3年次は地域芸術Ⅲ（前期5単位）・地域芸術Ⅳ（後期5単位），4年次は彫刻応用Ⅰ（前期5単位）・彫刻応用Ⅱ（後期5単位），卒業論文・制作（8単位）をそれぞれ履修してください。

⑤ 両コース共通

- (1) 理論・歴史部門では、「美術史概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各2単位）」の中から2科目，「西洋美術史Ⅰ・Ⅱ，日本美術史Ⅰ・Ⅱ，東洋美術史Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」の中から4科目，が選択必修科目となりますので，必ず履修し修得してください。美術史概論は2年次までに履修してください。
- (2) 研究部門では，「美術作品研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各2単位）」の中から2科目が選択必修科目となりますが，全て履修することが望ましい。
- (3) 表現部門からは，1年次にデッサン，版画基礎，彫塑（各1単位）を履修してください。

2 履修上の注意

- ① 別表のコースの欄に●印（必修科目）の記載がある科目は，コースの必修科目なので，必ず指定の授業年次に履修しなければなりません。
- ② 表現技術部門は，表現活動の実践的な知識と能力の修得を目的とした演習形式の講座であり1年次から4年次まで段階的に履修しなければなりません。不合格者の上級科目登録は認めません。
- ③ 卒業制作（8単位）は卒業論文（8単位）をもって変えることができます。この場合あらかじめ学務委員に申し出て相談してください。
- ④ 美術の教員免許を希望するものは4年次に教育実習があるため，3年次までに教職教科部門の科目を修得することが望ましい。

II群 学科別授業科目 (美術学科)

授業科目	単位数	絵画コース		彫刻コース		履修方法	授業年次
		絵画	版画	彫刻	地域芸術		
A 理論・歴史部門							
美術学Ⅰ	2						3
美術学Ⅱ	2						3
解剖学	2						3
美術史概論Ⅰ	2	■	■	■	■	2科目 選択必修	1
美術史概論Ⅱ	2	■	■	■	■		1
美術史概論Ⅲ	2	■	■	■	■		1
美術史概論Ⅳ	2	■	■	■	■		1
西洋美術史Ⅰ	2	■	■	■	■	4科目 選択必修	3
西洋美術史Ⅱ	2	■	■	■	■		3
日本美術史Ⅰ	2	■	■	■	■		3
日本美術史Ⅱ	2	■	■	■	■		3
東洋美術史Ⅰ	2	■	■	■	■		3
東洋美術史Ⅱ	2	■	■	■	■		3
B 研究部門							
美的構成研究Ⅰ	2						3
美的構成研究Ⅱ	2						3
版画概論Ⅰ	2						3
版画概論Ⅱ	2						3
美術作品研究Ⅰ	2	■	■	■	■	2科目 選択必修 ※全て履修 することが望ま しい	1
美術作品研究Ⅱ	2	■	■	■	■		1
美術作品研究Ⅲ	2	■	■	■	■		3
美術作品研究Ⅳ	2	■	■	■	■		3
美術特別講座Ⅰ	2						1
美術特別講座Ⅱ	2						1
古美術研究Ⅰ	2						3
古美術研究Ⅱ	2						3
美術特別研究Ⅰ	2						1
美術特別研究Ⅱ	2						1
C 表現技術部門							
デッサン	1	●	●	●	●		1
彫刻基礎Ⅰ	2	—	—	●	●		1
彫刻基礎Ⅱ	5	—	—	●	●		1
彫刻Ⅰ	5	—	—	●	—		2
彫刻Ⅱ	5	—	—	●	—		2
彫刻Ⅲ	5	—	—	●	—		3
彫刻Ⅳ	5	—	—	●	—		3
彫刻応用Ⅰ	5	—	—	●	●		4
彫刻応用Ⅱ	5	—	—	●	●		4
地域芸術Ⅰ	5	—	—	—	●		2
地域芸術Ⅱ	5	—	—	—	●		2
地域芸術Ⅲ	5	—	—	—	●		3
地域芸術Ⅳ	5	—	—	—	●		3

授業科目	単位数	絵画コース		彫刻コース		履修方法	授業年次
		絵画	版画	彫刻	地域芸術		
C 表現技術部門							
絵画Ⅰ	2	●	—	—	—		1
絵画Ⅱ	5	●	—	—	—		1
絵画Ⅲ	5	●	—	—	—		2
絵画Ⅳ	5	●	—	—	—		2
絵画Ⅴ	5	●	—	—	—		3
絵画Ⅵ	5	●	—	—	—		3
絵画Ⅶ	5	●	—	—	—		4
絵画Ⅷ	5	●	—	—	—		4
版画Ⅰ	2	—	●	—	—		1
版画Ⅱ	5	—	●	—	—		1
版画Ⅲ	5	—	●	—	—		2
版画Ⅳ	5	—	●	—	—		2
版画Ⅴ	5	—	●	—	—		3
版画Ⅵ	5	—	●	—	—		3
版画Ⅶ	5	—	●	—	—		4
版画Ⅷ	5	—	●	—	—		4
版画基礎	1	●	●	●	●		1
彫塑	1	●	●	●	●		1
卒業論文・制作	8	●	●	●	●		4

D 教職教科部門

(教職免許を修得するための科目により卒業単位には含まれません)

デザイン論	2						1
図学	2						1
映像メディア研究	1						3
美術教材研究Ⅰ	2						3
美術教材研究Ⅱ	2						3
工芸演習	2						2

- ・ 授業年次は、履修可能最低学年となります。
- ・ ●は「必修科目」、■は「選択必修科目」、その他は「選択科目」。
- ・ 美術作品研究Ⅰ～Ⅳは、全て履修することが望ましい。

IV 音楽学科

1 コースについて

音楽学科は、履修する主要科目の違いによって次の6コースに分かれています。

A 作曲・理論コース

作曲, 理論

B 音楽教育コース

C 声楽コース

D ピアノコース

E 弦管打楽コース

弦 楽 (Vn., Va., Vc., Cb., Gt.)

管打楽 (Fl., Ob., Cl., Fg., Sax., Hr., Tp., Tb., Euph., Tub., Perc.)

F 情報音楽コース

注. A～Fは学生番号の記号。弦楽・管打楽の（ ）内は専攻楽器。

○主要科目

各コースの主要科目は次のとおりです。

作曲・理論コース	{	作 曲	作曲・和声・記譜法
		理 論	音楽学・音楽学研究・ゼミナール
音楽教育コース			音楽教育学・ゼミナール
声楽コース			声楽・オペラ
ピアノコース			ピアノ・演奏論
弦管打楽コース	{	弦 楽	弦楽器・オーケストラ・室内楽
		管打楽	管打楽器・オーケストラ・吹奏楽
情報音楽コース			情報音楽基礎・情報音楽実践・ゼミナール

2 履修上の諸注意について

- ① 各コース欄に●印（必修科目）の記載のある科目は、当該コースの必修科目であるので必ず履修しなければなりません。
- ② コース欄に○印（準必修科目）が付してある科目は、優先的に修得してください。
- ③ コース欄が空欄になっている科目は、選択科目として所定の授業年次または当該年次以降において履修することができます。なおコース欄に－印のある科目は履修することができません。
- ④ 表現技術部門の科目で、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・・・と表記されている科目は、段階的に履修しなければなりません。1年間で履修登録できるのは、既に修得したグレードから2段階上まで（例：Ⅰを修得済みであればⅢまで）しか履修登録できません。

また、グレード前の科目名が同一であり、開講学期も同一（例：副科ピアノⅠ（前期）と副科ピアノⅢ（前期））の場合は、グレードが低い科目からしか履修登録できません。

II群 学科別授業科目 (音楽学科)

授業科目	単位数	作曲・理論		音楽教育	音楽	弦管打楽		情報音楽	履修方法	授業年次	授業科目	単位数	作曲・理論		音楽教育	音楽	弦管打楽		情報音楽	履修方法	授業年次				
		作曲	理論			弦楽	管打楽						作曲	理論			弦楽	管打楽							
A 理論・歴史部門											作曲IV	2	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
音楽学Ⅰ	2	●	●	●	●	●	●	●		1	作曲V	2	●	—	—	—	—	—	—	—	—	3			
音楽学Ⅱ	2	●	●	●	●	●	●	●		1	作曲VI	2	●	—	—	—	—	—	—	—	—	3			
音楽学Ⅲ	2		●							2	作曲VII	2		—	—	—	—	—	—	—	—	4			
音楽学Ⅳ	2		●							2	作曲VIII	2		—	—	—	—	—	—	—	—	4			
音楽概論	2									1	副科作曲Ⅰ	1	—									2			
音楽形式学Ⅰ	2	●	●	●	●	●	●	●		2	副科作曲Ⅱ	1	—									2			
音楽形式学Ⅱ	2	●	●	●	●	●	●	●		2	副科作曲Ⅲ	1	—									3			
音楽教育学Ⅰ	2			●						2	副科作曲Ⅳ	1	—									3			
音楽教育学Ⅱ	2			●						2	和声Ⅰ	1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1		
音声学	2				○				準必修(音楽)	2	和声Ⅱ	1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1		
作曲論	2	●								3	和声Ⅲ	1	●									2			
演奏論Ⅰ	2					●				1	和声Ⅳ	1	●									2			
演奏論Ⅱ	2					●				2	和声Ⅴ	1										3			
音楽史Ⅰ	2	●	●	●	●	●	●	●		1	和声Ⅵ	1										3			
音楽史Ⅱ	2									2	フーガⅠ	1	●									1			
音楽史Ⅲ	2									3	フーガⅡ	1	●									1			
音楽史Ⅳ	2									2	編曲法Ⅰ	1	●									3			
音楽史Ⅴ	2									3	編曲法Ⅱ	1	●									3			
B 研究部門											ピアノⅠ	2	—	—	—	—	●	—	—	—		1			
音楽教育研究Ⅰ	2			○					準必修(音楽教育)	1	ピアノⅡ	2	—	—	—	—	●	—	—	—		1			
音楽教育研究Ⅱ	2			○					準必修(音楽教育)	1	ピアノⅢ	2	—	—	—	—	●	—	—	—		2			
音楽教育研究Ⅲ	2									2	ピアノⅣ	2	—	—	—	—	●	—	—	—		2			
音楽教育研究Ⅳ	2									2	ピアノⅤ	2	—	—	—	—	●	—	—	—		3			
音楽教育研究Ⅴ	2									3	ピアノⅥ	2	—	—	—	—	●	—	—	—		3			
音楽教育研究Ⅵ	2									3	ピアノⅦ	2	—	—	—	—	●	—	—	—		4			
情報音楽基礎Ⅰ	2	—	—	—	—	—	—	●		1	ピアノⅧ	2	—	—	—	—	—	—	—		4				
情報音楽実践Ⅰ	2	—	—	—	—	—	—	○	準必修(情報音楽)	1	副科ピアノⅠ	1	●	●	●	●	—	●	●			1			
情報音楽基礎Ⅱ	2	—	—	—	—	—	—	●		1	副科ピアノⅡ	1	●	●	●	●	—	●	●			1			
情報音楽実践Ⅱ	2	—	—	—	—	—	—	○	準必修(情報音楽)	1	副科ピアノⅢ	1	●	●	●	●	—	●	●			2			
情報音楽基礎Ⅲ	2	—	—	—	—	—	—	●		2	副科ピアノⅣ	1	●	●	●	●	—	●	●			2			
情報音楽実践Ⅲ	2	—	—	—	—	—	—	○	準必修(情報音楽)	2	副科ピアノⅤ	1					—					3			
情報音楽基礎Ⅳ	2	—	—	—	—	—	—	●		2	副科ピアノⅥ	1					—					3			
情報音楽実践Ⅳ	2	—	—	—	—	—	—	○	準必修(情報音楽)	2	特殊鍵盤楽器Ⅰ	1										3			
音楽療法研究Ⅰ	2									2	特殊鍵盤楽器Ⅱ	1										3			
音楽療法研究Ⅱ	2									3	特殊鍵盤楽器Ⅲ	1										4			
音楽作品研究	2		■						作曲・理論 (理論)は 4単位 選択必修	3	特殊鍵盤楽器Ⅳ	1										4			
音楽作品分析	2		■							3	伴奏法Ⅰ	1										2			
日本の伝統音楽研究	2		■							3	伴奏法Ⅱ	1										2			
民族音楽研究	2		■							3	伴奏法Ⅲ	1										3			
ジャズ研究	2									3	伴奏法Ⅳ	1										3			
ポピュラー音楽研究	2									3	声楽Ⅰ	2	—	—	—	●	—	—	—	—		1			
記譜法	2	●								3	声楽Ⅱ	2	—	—	—	●	—	—	—	—		1			
歌曲研究Ⅰ	2									3	声楽Ⅲ	2	—	—	—	●	—	—	—	—		2			
歌曲研究Ⅱ	2									3	声楽Ⅳ	2	—	—	—	●	—	—	—	—		2			
ミュージカル概論	2									3	声楽Ⅴ	2	—	—	—	●	—	—	—	—		3			
音楽マネジメント	2									3	声楽Ⅵ	2	—	—	—	●	—	—	—	—		3			
吹奏楽研究	2									3	声楽Ⅶ	2	—	—	—	—	—	—	—	—		4			
音楽文献原典講読Ⅰ	2		●							3	声楽Ⅷ	2	—	—	—	—	—	—	—	—		4			
音楽文献原典講読Ⅱ	2									3	副科声楽Ⅰ	1	●	●	●	—	●	●	●		履修年次は ガイダンス で指示しま す。	1			
音楽キャリア論	2									2	副科声楽Ⅱ	1	●	●	●	—	●	●	●			1			
古楽概論	2									3	副科声楽Ⅲ	1				—						2			
C 表現技術部門											副科声楽Ⅳ	1					—						2		
作曲Ⅰ	2	●	—	—	—	—	—	—		1	副科声楽Ⅴ	1					—						3		
作曲Ⅱ	2	●	—	—	—	—	—	—		1	副科声楽Ⅵ	1					—						3		
作曲Ⅲ	2	●	—	—	—	—	—	—		2															

授業科目	単位数	作曲・理論		音楽教育	音楽	ピアノ	弦管打楽		情報音楽	履修方法	授業年次
		作曲	理論				弦楽	管打楽			
合唱Ⅰ	1	●	●	●	●	●	●	●		履修年次はガイダンスで指示します。	1
合唱Ⅱ	1	●	●	●	●	●	●	●			1
合唱Ⅲ	1			●	●						2
合唱Ⅳ	1			●	●						2
合唱Ⅴ	1			●	●						3
合唱Ⅵ	1										3
合唱Ⅶ	1										4
合唱Ⅷ	1										4
オペラⅠ	1				●					準必修(音楽)	2
オペラⅡ	1				●						2
オペラⅢ	1				●					準必修(音楽)	3
オペラⅣ	1				●						3
オペラⅤ	1				○					4	
オペラⅥ	1				○					4	
弦楽器Ⅰ	2	—	—	—	—	—	●	—	—		1
弦楽器Ⅱ	2	—	—	—	—	—	●	—	—		1
弦楽器Ⅲ	2	—	—	—	—	—	●	—	—		2
弦楽器Ⅳ	2	—	—	—	—	—	●	—	—		2
弦楽器Ⅴ	2	—	—	—	—	—	●	—	—		3
弦楽器Ⅵ	2	—	—	—	—	—	●	—	—		3
弦楽器Ⅶ	2	—	—	—	—	—	—	—	—		4
弦楽器Ⅷ	2	—	—	—	—	—	—	—	—		4
副科弦楽器Ⅰ	1						—	—	—		1
副科弦楽器Ⅱ	1						—	—	—		1
副科弦楽器Ⅲ	1						—	—	—		2
副科弦楽器Ⅳ	1						—	—	—		2
管打楽器Ⅰ	2	—	—	—	—	—	—	●	—		1
管打楽器Ⅱ	2	—	—	—	—	—	—	●	—		1
管打楽器Ⅲ	2	—	—	—	—	—	—	●	—		2
管打楽器Ⅳ	2	—	—	—	—	—	—	●	—		2
管打楽器Ⅴ	2	—	—	—	—	—	—	●	—		3
管打楽器Ⅵ	2	—	—	—	—	—	—	●	—		3
管打楽器Ⅶ	2	—	—	—	—	—	—	—	—		4
管打楽器Ⅷ	2	—	—	—	—	—	—	—	—		4
副科管打楽器Ⅰ	1						—	—	—		1
副科管打楽器Ⅱ	1						—	—	—		1
副科管打楽器Ⅲ	1						—	—	—		2
副科管打楽器Ⅳ	1						—	—	—		2
オーケストラⅠ	1						●	●			1
オーケストラⅡ	1						●	●			1
オーケストラⅢ	1						●	●			2
オーケストラⅣ	1						●	●			2
オーケストラⅤ	1						●	●			3
オーケストラⅥ	1						●	●			3
オーケストラⅦ	1						○	○		準必修(弦楽・管打楽)	4
オーケストラⅧ	1						○	○		準必修(弦楽・管打楽)	4
吹奏楽Ⅰ	1							●			1
吹奏楽Ⅱ	1							●			1
吹奏楽Ⅲ	1							●			2
吹奏楽Ⅳ	1							●			2
吹奏楽Ⅴ	1							●			3
吹奏楽Ⅵ	1							●			3
吹奏楽Ⅶ	1							○		準必修(管打楽)	4
吹奏楽Ⅷ	1							○		準必修(管打楽)	4
室内楽Ⅰ	1						●	●			1
室内楽Ⅱ	1						●	●			1

授業科目	単位数	作曲・理論		音楽教育	音楽	ピアノ	弦管打楽		情報音楽	履修方法	授業年次
		作曲	理論				弦楽	管打楽			
室内楽Ⅲ	1						●	●			2
室内楽Ⅳ	1						●	●			2
室内楽Ⅴ	1						●	○		準必修(管打楽)	3
室内楽Ⅵ	1						●	○		準必修(管打楽)	3
室内楽Ⅶ	1						○	○		準必修(弦楽・管打楽)	4
室内楽Ⅷ	1						○	○		準必修(弦楽・管打楽)	4
ピアノデュオⅠ	2										3
ピアノデュオⅡ	2										3
ピアノデュオⅢ	2										4
ピアノデュオⅣ	2										4
キーボード・ハーモニⅠ	1								●		1
キーボード・ハーモニⅡ	1								●		1
ボーカル・トレーニングⅠ	1								●		1
ボーカル・トレーニングⅡ	1								●		1
デジタルコンテンツ制作Ⅰ	2								●		2
デジタルコンテンツ制作Ⅱ	2								●		2
ソルフェージュⅠ	1	●	●	●	●	●	●	●			1
ソルフェージュⅡ	1	●	●	●	●	●	●	●			1
ソルフェージュⅢ	1	●	●	●	●	●	●	●			2
ソルフェージュⅣ	1	●	●	●	●	●	●	●			2
ソルフェージュⅤ	1										3
ソルフェージュⅥ	1										3
指揮法演習Ⅰ	1										2
指揮法演習Ⅱ	1										2
音楽教材演習Ⅰ	1										3
音楽教材演習Ⅱ	1										3
教育用楽器等合奏法Ⅰ	1										2
教育用楽器等合奏法Ⅱ	1										2
音楽療法演習Ⅰ	1										2
音楽療法演習Ⅱ	1										3
音楽療法実習Ⅰ	1										3
音楽療法実習Ⅱ	1										3
ゼミナールⅠ	1	—	●	●	—	—	—	—	●		3
ゼミナールⅡ	1	—	●	●	—	—	—	—	●		3
ゼミナールⅢ	1	—	○	○	—	—	—	—	○	準必修(理論・音楽教育・情報音楽)	4
ゼミナールⅣ	1	—	○	○	—	—	—	—	○	準必修(理論・音楽教育・情報音楽)	4
音楽共同制作	1										3
プロジェクトⅠ	1		●						●		2
プロジェクトⅡ	1		●						●		2
プロジェクトⅢ	1								●		3
プロジェクトⅣ	1								●		3
卒業論文・演奏・作品	8	●	●	●	●	●	●	●	●		4

- ・ 授業年次は、履修可能最低学年となります。
- ・ ●は「コースの必修科目」、■は「選択必修科目」、○は「コースの準必修科目」、その他は「選択科目」。
- ・ コース欄に「一」がある科目は履修することができません。

V 文芸学科

履修上の諸注意について

1 文芸研究について

文芸研究は、表現活動の実践的な知識と能力の修得を目的としたゼミナール形式の講座であり、下記の通り1年次から4年次まで段階的に履修（必修）しなければなりません。

◎文芸研究Ⅰ（1年次）、文芸研究Ⅱ（2年次）、文芸研究Ⅲ（3年次）、文芸研究Ⅳ（4年次）

なお、文芸研究Ⅲと文芸研究Ⅳは2年間継続して履修しなければなりません。

☆ただし、再履修する場合は、再履修科目と学年次指定科目を同時に履修することができます。

例：1年次に文芸研究Ⅰの単位を修得できなかった場合、2年次に文芸研究Ⅰと文芸研究Ⅱを同時に履修することができます。

2 卒業論文・作品について

4年次に必ず履修してください。

Ⅱ群 学科別授業科目 (文芸学科)

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次	授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
A 理論・歴史部門					出版文化論Ⅱ	2			1
言語学Ⅰ	2			2	翻訳文学論Ⅰ	2			2
言語学Ⅱ	2			2	翻訳文学論Ⅱ	2			2
海外文芸史Ⅰ	2			1	雑誌研究Ⅰ	2			2
海外文芸史Ⅱ	2			1	雑誌研究Ⅱ	2			2
海外文芸史Ⅲ	2			1	文芸特講Ⅰ	2			1
海外文芸史Ⅳ	2			1	文芸特講Ⅱ	2			1
古典文学史Ⅰ	2			2	文芸特講Ⅲ	2			1
古典文学史Ⅱ	2			2	文芸特講Ⅳ	2			1
現代文学史Ⅰ	2			2	文芸特講Ⅴ	2			2
現代文学史Ⅱ	2			2	文芸特講Ⅵ	2			2
日本文化史Ⅰ	2			2	文芸特講Ⅶ	2			2
日本文化史Ⅱ	2			2	文芸特講Ⅷ	2			2
思想の歴史	2			2	原典講読Ⅰ	1			1
思想の座標	2			2	原典講読Ⅱ	1			1
文芸入門講座Ⅰ	2			1	原典講読Ⅲ	1			2
文芸入門講座Ⅱ	2			1	原典講読Ⅳ	1			2
B 研究部門					文芸特別講座Ⅰ	2			2
作家作品論Ⅰ	2			2	文芸特別講座Ⅱ	2			2
作家作品論Ⅱ	2			2	C 表現技術部門				
小説論Ⅰ	2			2	文芸研究Ⅰ	4	●	段階制科目	1
小説論Ⅱ	2			2	文芸研究Ⅱ	4	●	段階制科目	2
文芸創作論Ⅰ	2			1	文芸研究Ⅲ	4	●	段階制科目	3
文芸創作論Ⅱ	2			1	文芸研究Ⅳ	4	●	段階制科目	4
文芸創作論Ⅲ	2			1	表現領域拡張講座Ⅰ	2			2
文芸創作論Ⅳ	2			1	表現領域拡張講座Ⅱ	2			2
伝記論Ⅰ	2			2	編集研究Ⅰ	2			2
伝記論Ⅱ	2			2	編集研究Ⅱ	2			2
文芸批評論Ⅰ	2			2	文芸情報処理演習Ⅰ	1			1
文芸批評論Ⅱ	2			2	文芸情報処理演習Ⅱ	1			1
エッセイ研究Ⅰ	2			2	DTP演習Ⅰ	1			1
エッセイ研究Ⅱ	2			2	DTP演習Ⅱ	1			1
児童文学論Ⅰ	2			2	DTP演習Ⅲ	1			1
児童文学論Ⅱ	2			2	DTP演習Ⅳ	1			1
現代詩研究Ⅰ	2			2	マンガ演習Ⅰ	1			2
現代詩研究Ⅱ	2			2	マンガ演習Ⅱ	1			2
詩歌論Ⅰ	2			2	卒業論文・作品	8	●		4
詩歌論Ⅱ	2			2	D 教職教科部門				
シナリオ研究Ⅰ	2			2	(教職免許を修得するための科目により卒業単位には含まれません)				
シナリオ研究Ⅱ	2			2	国語学Ⅰ	2			2
幻想小説論	2			1	国語学Ⅱ	2			2
SF小説論Ⅰ	2			1	国文学Ⅰ	2			2
SF小説論Ⅱ	2			1	国文学Ⅱ	2			2
ミステリー小説論	2			1	漢文学Ⅰ	2			2
口承文芸論Ⅰ	2			1	漢文学Ⅱ	2			2
口承文芸論Ⅱ	2			1	漢文学史Ⅰ	2			2
ノンフィクション論Ⅰ	2			2	漢文学史Ⅱ	2			2
ノンフィクション論Ⅱ	2			2	書道Ⅰ	2			2
マンガ論Ⅰ	2			1	書道Ⅱ	2			2
マンガ論Ⅱ	2			1					
ジャーナリズム論Ⅰ	2			2					
ジャーナリズム論Ⅱ	2			2					
メディア論Ⅰ	2			2					
メディア論Ⅱ	2			2					
出版文化論Ⅰ	2			1					

- ・授業年次は、履修可能最低学年となります。
- ・●は「必修科目」、■は「選択必修科目」、その他は「選択科目」。
- ・段階制科目は授業年次の欄の最低学年次より履修してください。

VI 演劇学科

演劇学科では、履修する主要科目の違いによって以下のコース・専攻に分かれています。

- ・舞台構想コース（劇作専攻，演出専攻，音響専攻，舞台監督専攻，企画制作専攻）
- ・演技コース
- ・舞台美術コース（舞台美術専攻，照明専攻）
- ・舞踊コース（日舞専攻，洋舞専攻）

1 カリキュラムの特徴

演劇学科の科目履修については、主として演習・実習科目の履修にかかわるコース・専攻と、3・4年次の主として研究・演習科目の履修にかかわるゼミナールのシステムがあるので、理解しておかなければなりません。

コース・専攻は、科目の指定，クラスの編成などにかかわりがあります。（コース・専攻に関する規定は年次によって異なることがあるので，毎年度初頭のガイダンスに注意してください。）

ゼミナールのシステムとは，卒業のための要件である卒業論文・制作の提出・発表にむけて，3年次のゼミナール（Ⅰ～Ⅵ）と4年次の卒業ゼミナールは，それぞれ履修条件を満たしたうえで選択的に受講してゆく，というものです。（開設されるゼミナールは年度によって異なることがあるので，ガイダンス・掲示などに注意してください。）

2 履修上の諸注意

下記の事項また授業科目リストにおける各欄の意味を理解のうえ，計画的に受講・履修をすすめてください。

- ① コース・専攻別の欄に●印（必修科目），■印（選択必修科目），の記載がある科目は卒業の要件となりますので，指定の授業年次に必ず履修し単位を修得してください。
- ② コース・専攻の欄に○印（準必修科目），の記載がある科目は卒業の要件ではないが，各コース・専攻が指定した科目で，必ず履修し優先的に修得しなければならない科目となります。
- ③ 理論・歴史および研究部門の選択科目は全コース・専攻の学生が履修できます。ただし，表現技術部門の科目については，コース・専攻の限定その他の履修条件が付されるものがあるので，演劇学科によるガイダンスまた受講年度のシラバスにおける履修条件の項に注意してください。

II 群 学科別授業科目 (演劇学科)

授業科目	単位数	舞台構想					舞台美術		舞踊		履修方法	授業年次
		劇作	演出	音響	舞台監督	企画制作	演技	舞台美術	照明	日舞		
A 理論・歴史部門												
演劇概論Ⅰ	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1
演劇概論Ⅱ	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●		2
演劇学	2											3
舞踊学	2											3
劇場論Ⅰ	2											2
劇場論Ⅱ	2											3
戯曲論	2	○										3
演出論	2		○									3
演技論	2					○						2
舞踊論Ⅰ	2								○			3
舞踊論Ⅱ	2									○		3
演劇教育論	2											3
演劇史Ⅰ	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1
演劇史Ⅱ	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1
演劇史Ⅲ	2											2
演劇史Ⅳ	2											2
演劇史Ⅴ	2											3
舞踊史Ⅰ	2								○			2
舞踊史Ⅱ	2									○		2
B 研究部門												
応用演劇研究	2											3
演劇批評研究	2											3
古典演劇研究Ⅰ	2											2
古典演劇研究Ⅱ	2											3
現代演劇研究Ⅰ	2											2
現代演劇研究Ⅱ	2											3
作家作品研究Ⅰ	2											2
作家作品研究Ⅱ	2											3
舞台美術研究	2					○						3
舞台照明研究	2						○					3
舞台技術研究Ⅰ	2		○									3
舞台技術研究Ⅱ	2			○								3
企画制作研究Ⅰ	2				○							3
企画制作研究Ⅱ	2											3
演劇特殊研究Ⅰ	2											3
演劇特殊研究Ⅱ	2											3
演劇特殊研究Ⅲ	2											3
演劇特殊研究Ⅳ	2											3
演劇特殊研究Ⅴ	2											3
演劇特殊研究Ⅵ	2											3
演劇特殊研究Ⅶ	2											3
演劇特殊研究Ⅷ	2											3
C 表現技術部門												
演劇基礎演習	1											1
戯曲講読演習	1											1
劇作演習	1	■	■	■	■	■						1
演出演習	1	■	■	■	■	■						1
音響演習	1	■	■	■	■	■						1
舞台監督演習	1	■	■	■	■	■						1
企画制作演習	1	■	■	■	■	■						1
演技演習	2					●						1
舞台美術演習	1						■	■				1
舞台照明演習	1						■	■				1
日本舞踊演習	2									●		1
西洋舞踊演習	2										●	1
ゼミナールⅠ	2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
ゼミナールⅡ	2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
ゼミナールⅢ	2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
ゼミナールⅣ	2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
ゼミナールⅤ	2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
ゼミナールⅥ	2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
卒業ゼミナール	2											4
卒業研究	8	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	4

・授業年次は、履修可能最低学年となります。
 ・●は「必修科目」、■は「選択必修科目」、○は「準必修科目(コース指定科目)」, その他は「選択科目」。

Ⅶ 放送学科

1 専門分野について

専門分野は、以下の7つに分かれています。

いずれかひとつの実習科目を選択し、それぞれの、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの段階を履修しなければなりません（選択必修）。

実習を途中で変更する場合、新たにⅠの段階より履修しなければなりません。

【専門分野】

テレビ制作	ラジオ制作	映像技術	音響技術
CM	脚本	アナウンス	

【実習科目】

1年次（選択必修）	2年次（選択必修）	3年次（選択必修）
テレビ制作Ⅰ	テレビ制作Ⅱ,Ⅲ	テレビ制作Ⅳ,Ⅴ
ラジオ制作Ⅰ	ラジオ制作Ⅱ,Ⅲ	ラジオ制作Ⅳ,Ⅴ
映像技術Ⅰ	映像技術Ⅱ,Ⅲ	映像技術Ⅳ,Ⅴ
音響技術Ⅰ	音響技術Ⅱ,Ⅲ	音響技術Ⅳ,Ⅴ
CMⅠ	CMⅡ,Ⅲ	CMⅣ,Ⅴ
脚本Ⅰ	脚本Ⅱ,Ⅲ	脚本Ⅳ,Ⅴ
アナウンスⅠ	アナウンスⅡ,Ⅲ	アナウンスⅣ,Ⅴ

2 演習について

演習は、放送表現に関わる基礎知識・技術を実践的に習得する場です。

3 ゼミナール／卒業研究について

各専攻分野で学んできた成果を計るために、4年次では、卒業研究（論文／制作／発表など）を提出しなければなりません。そのため、3年次より2年間にわたって、各自の専攻、制作、研究分野に合わせてゼミナールを履修し、指導を受けることになります（必修）。

科目の詳細については、授業計画（シラバス）及び学科履修要項を参照して下さい。

Ⅱ群 学科別授業科目 (放送学科)

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次	授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
A 理論・歴史部門					ラジオ演出論Ⅱ	2			2～4
放送概論Ⅰ	2			1	テレビ演出論Ⅰ	2			2～4
放送概論Ⅱ	2			1	テレビ演出論Ⅱ	2			2～4
ラジオ史Ⅰ	2			1～4	ドキュメンタリーの演出Ⅰ	2			2～4
ラジオ史Ⅱ	2			1～4	ドキュメンタリーの演出Ⅱ	2			2～4
テレビ史Ⅰ	2			1～4	テレビドラマの表現Ⅰ	2			3・4
テレビ史Ⅱ	2			1～4	テレビドラマの表現Ⅱ	2			3・4
放送制度論	2			2～4	放送表現と人権Ⅰ	2			2～4
放送契約論	2			2～4	放送表現と人権Ⅱ	2			2～4
メディア研究Ⅰ	2			1・2	放送美術論Ⅰ	2			2～4
メディア研究Ⅱ	2			1・2	放送美術論Ⅱ	2			2～4
メディア研究Ⅲ	2			2～4	放送広告論Ⅰ	2			2～4
メディア研究Ⅳ	2			2～4	放送広告論Ⅱ	2			2～4
メディア研究Ⅴ	2			2～4	放送報道論Ⅰ	2			2～4
メディア研究Ⅵ	2			2～4	放送報道論Ⅱ	2			2～4
メディア研究Ⅶ	2			2～4	放送技術概論Ⅰ	2			2～4
電気概論Ⅰ	2			1～4	放送技術概論Ⅱ	2			2～4
電気概論Ⅱ	2			1～4	音響技術論Ⅰ	2			2
B 研究部門					音響技術論Ⅱ	2			2
テレビの編成	2			2～4	音響技術論Ⅲ	2			3
ラジオの編成	2			2～4	音響技術論Ⅳ	2			3
制作技術研究Ⅰ	2			2～4	映像技術論Ⅰ	2			2
制作技術研究Ⅱ	2			2～4	映像技術論Ⅱ	2			2
広告とマーケティング戦略Ⅰ	2			2～4	映像技術論Ⅲ	2			3
広告とマーケティング戦略Ⅱ	2			2～4	映像技術論Ⅳ	2			3
放送作品研究Ⅰ	2			2～4	映像制作演習	1	●		1
放送作品研究Ⅱ	2			2～4	音響制作演習	1	●		1
放送作品研究Ⅲ	2			2～4	企画演習	1			1
放送作品研究Ⅳ	2			2～4	テレビ制作Ⅰ	1	■	} 1科目選択必修	1
放送作品研究Ⅴ	2			2～4	ラジオ制作Ⅰ	1	■		1
放送作品研究Ⅵ	2			2～4	映像技術Ⅰ	1	■		1
放送作品研究Ⅶ	2			2～4	音響技術Ⅰ	1	■		1
放送作品研究Ⅷ	2			2～4	CMⅠ	1	■		1
放送作品研究Ⅸ	2			2～4	脚本Ⅰ	1	■		1
放送作品研究Ⅹ	2			2～4	アナウンスⅠ	1	■		1
放送作品研究Ⅺ	2			2～4					
放送作品研究Ⅻ	2			2～4					
音響心理学Ⅰ	2			2～4					
音響心理学Ⅱ	2			2～4					
ゼミナールⅠ	2	●		3					
ゼミナールⅡ	2	●		4					
C 表現技術部門									
放送脚本論Ⅰ	2			2					
放送脚本論Ⅱ	2			2					
ラジオ演出論Ⅰ	2			2～4					

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	授業年次
テレビ制作Ⅱ	1	■	} 2科目選択必修	2
テレビ制作Ⅲ	1	■		2
ラジオ制作Ⅱ	1	■		2
ラジオ制作Ⅲ	1	■		2
映像技術Ⅱ	1	■		2
映像技術Ⅲ	1	■		2
音響技術Ⅱ	1	■		2
音響技術Ⅲ	1	■		2
CMⅡ	1	■		2
CMⅢ	1	■		2
脚本Ⅱ	1	■		2
脚本Ⅲ	1	■		2
アナウンスⅡ	1	■		2
アナウンスⅢ	1	■		2
テレビ制作Ⅳ	1	■	} 2科目選択必修	3
テレビ制作Ⅴ	1	■		3
ラジオ制作Ⅳ	1	■		3
ラジオ制作Ⅴ	1	■		3
映像技術Ⅳ	1	■		3
映像技術Ⅴ	1	■		3
音響技術Ⅳ	1	■		3
音響技術Ⅴ	1	■		3
CMⅣ	1	■		3
CMⅤ	1	■		3
脚本Ⅳ	1	■		3
脚本Ⅴ	1	■		3
アナウンスⅣ	1	■		3
アナウンスⅤ	1	■		3
番組企画構成演習Ⅰ	1			2
番組企画構成演習Ⅱ	1			2
番組企画構成演習Ⅲ	1			3・4
番組企画構成演習Ⅳ	1			3・4
コピーライティングⅠ	1			2・3
コピーライティングⅡ	1			2・3
照明演習Ⅰ	1			2～4
照明演習Ⅱ	1			2～4
ニュース分析Ⅰ	1			2
ニュース分析Ⅱ	1			2
ニュース分析Ⅲ	1			3・4
ニュース分析Ⅳ	1			3・4
取材調査演習Ⅰ	1			2
取材調査演習Ⅱ	1			2
卒業研究	8	●		4

- ・ 授業年次は、該当年次を受講のこと。
- ・ ●は「必修科目」、■は「選択必修科目」、その他は「選択科目」。

Ⅷ デザイン学科

1 デザイン学科の科目履修について

- ・1年次では、基礎的な造形力やデザインの基本的技法等の知識を身につけるための講義科目や実習・演習科目が必修となっています。必修科目は全て1年次で履修し単位を修得してください。これらの授業内容を理解していることを前提に2年次以降の専門科目は内容が設定されています。
- ・2年次以降は別表のとおり、指定された「選択必修科目」と各自が選択した分野ごとに決められた「準選択必修科目」の履修方法ならびに授業年次に従い単位を修得してください。時間割は年度ごとに変更されますので、卒業に係わる単位修得に十分注意し、余裕を持った履修計画を立ててください。特に4年次は、デザインゼミナール、卒業論文・制作に集中できる履修計画を立てることが望まれます。

2 専門分野の決定

- ・デザイン学科では4つの専門分野を設け、これに基づいてカリキュラムが決められています。
- ・1年次にはデザインの基礎であり全分野共通となるベーシックデザインを学び、デザイン全般に対する理解を深めます。2年次以降は、本人の希望や適性に応じて専門分野の科目を自由に選択することができます。デザイン学科では、将来の進路や目標を見据えて専門分野を各自で決め、より高い専門性を身につけるとともに、関連する他分野の科目を履修するなどにより、従来の分野や領域にとらわれない柔軟性を備えたデザイナー、クリエイターの育成を目指しています。
- ・各年次の終了時には、各自の適性、技量、科目の成績、提出作品内容、そして授業態度などの総ての評価を基に、適切な専門科目の選択や将来の方向性を定めるために「進路カウンセリング」において個別指導を行います。

3 資格修得の科目について

- ・デザイン学科では、教職課程および学芸員課程を履修し、中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術／工芸）、学芸員資格が修得できます。詳細はガイダンス時に説明を行いますので資格 修得希望者は、必ず説明会に出席の上、受講手続きを取ってください。
- ・デザイン学科では、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格の認定を受けています。各建築士資格により在学中に修得しなければならない指定科目が設定されています。別表を 参考にし必要な指定科目を各自確認の上、それぞれの資格に応じた履修計画を立てるように留意してください。建築士試験の指定科目制度をよく理解し、必要な指定科目を履修し単位を修得してください。詳細はガイダンス時に説明を行いますので必ず説明会に出席の上、受講手続きを取ってください。
- ・建築士試験の指定科目に関しては、転部生・転科生は個別の履修計画の指導を必ず受けてください。また、編入生は指定科目の単位認定確定後に個別の履修計画指導を行います。
- ・別表に☆印が付してある科目は、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格に必要な指定科目です。
これらの指定科目に関する詳細資料はガイダンス時に配布します。

4 卒業研究について

- ・3年次終了迄に84単位以上を修得していないと4年間で卒業できないため、4年次のデザインゼミナール、卒業論文・制作を履修登録できません。
- ・卒業するには、デザインゼミナール4単位と卒業制作または、卒業論文8単位を必ず修得しなければなりません。なお、希望するゼミナールを履修するためには、そのゼミ担当教員の専門科目を3年次までに最低一つは修得しておく必要があります。

II群 学科別授業科目 (デザイン学科)

授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	建築士	授業年次	授業科目	単位数	必修 (●)	履修方法	建築士	授業年次	
A 理論・歴史部門						エディトリアルデザイン	2				2	
デザイン論Ⅰ	2	●			1	ライフデザインⅠ	2				2	
デザイン論Ⅱ	2	●			1	ライフデザインⅡ	2				2	
美術学Ⅰ	2				3	フォトグラフィ	2				2	
美術学Ⅱ	2				3	アーキテクチュアルドローイング	2			☆	2	
美術史概論	2				1	プレゼンテーションテクニックⅠ	2				2	
工芸概論	2				1	プレゼンテーションテクニックⅡ	2				2	
日本建築史	2	■	2単位以上修得 しなければならない	☆	2	CADⅠ	2				2	
西洋建築史	2	■		☆	2	CADⅡ	2				3	
デザイン史Ⅰ	2	■			2	(ビジュアルコミュニケーションデザイン)						
デザイン史Ⅱ	2	■			2	グラフィックデザインⅠ	2	□	4単位以上を選択 し、優先的に修得 してください。			2
デザイン史Ⅲ	2	■			2	グラフィックデザインⅡ	2	□				2
デザイン論Ⅲ	2	■	2単位以上修得 しなければならない		2	グラフィックデザインⅢ	2	□				2
デザイン論Ⅳ	2	■			2	グラフィックデザインⅣ	2	□				2
デザイン論Ⅴ	2	■			2	グラフィックデザインⅤ	2	□				2
デザイン論Ⅵ	2	■			2	グラフィックデザインⅥ	2	□				2
建築デザイン論	2	■		☆	2	グラフィックデザインⅦ	2	□				2
B 研究部門						グラフィックデザインⅧ	2	□				2
タイポグラフィ論	2	■	2単位以上修得 しなければならない		2	コミュニケーションデザインⅠ	2	□	4単位以上を選択 し、優先的に修得 してください。		2	
エルゴノミックデザイン論	2	■		☆	2	コミュニケーションデザインⅡ	2	□			2	
マテリアル	2	■			2	コミュニケーションデザインⅢ	2	□			2	
メカトロニクス概論	2	■			2	コミュニケーションデザインⅣ	2	□			2	
デザインマネージメント論Ⅰ	2	■			2	コミュニケーションデザインⅤ	2	□			2	
デザインマネージメント論Ⅱ	2			3	コミュニケーションデザインⅥ	2	□			2		
環境論Ⅰ	2			☆	3	コミュニケーションデザインⅦ	2	□			2	
環境論Ⅱ	2			☆	3	(プロダクトデザイン)						
プランニングⅠ	2			☆	2	プロダクトデザインⅠ	2	□	4単位以上を選択 し、優先的に修得 してください。		2	
プランニングⅡ	2			☆	3	プロダクトデザインⅡ	2	□			2	
力学	2			☆	3	プロダクトデザインⅢ	2	□			2	
ストラクチャーⅠ	2			☆	3	プロダクトデザインⅣ	2	□			2	
ストラクチャーⅡ	2			☆	3	プロダクトデザインⅤ	2	□	4単位以上を選択 し、優先的に修得 してください。		3	
構法概論	2			☆	2	プロダクトデザインⅥ	2	□			3	
建築生産論	2			☆	3	プロダクトデザインⅦ	2	□			3	
建築設備	2			☆	3	プロダクトデザインⅧ	2	□			3	
建築法規	2			☆	3	プロダクトデザインⅨ	2	□			3	
図学Ⅰ	2			☆	2	(スペース・アーキテクチャデザイン)						
図学Ⅱ	2			☆	2	スペースデザインⅠ	2	□	4単位以上を選択 し、優先的に修得 してください。	☆	2	
デザイン特別講座Ⅰ	2	●		1	スペースデザインⅡ	2	□			☆	2	
デザイン特別講座Ⅱ	2			2	スペースデザインⅢ	2	□			☆	2	
建築一般構造	2			☆	3	スペースデザインⅣ	2	□			☆	3
C 表現技術部門						アーキテクチャデザインⅠ	2	□	4単位以上を選択 し、優先的に修得 してください。	☆	2	
(ベーシックデザインⅠ)						アーキテクチャデザインⅡ	2	□			☆	2
ドローイングⅠ	2	●	2単位以上修得 しなければならない		1	アーキテクチャデザインⅢ	2	□			☆	2
ドローイングⅡ	2	■			1	アーキテクチャデザインⅣ	2	□			☆	3
製図Ⅰ	2	●			1	アーキテクチャデザインⅤ	2	□			☆	3
製図Ⅱ	2	■			1	アーキテクチャデザインⅥ	2	□			☆	3
カラー&コンポジション	2	●			1	(ソーシャルデザイン)						
スタイル&フォーム	2	●			1	総合演習	2				3	
マテリアル&コンストラクション	2	■		1	インターンシップ	2			☆	3		
デザインフィールドワークショップ	2	●		1	デザインゼミナール	4	●			4		
ベーシックデザインワークショップ	2	●		1	卒業論文・制作	8	●			4		
(ベーシックデザインⅡ)												
コンピュータ基礎	2			☆	2							
ビジュアル基礎	2	□	4単位以上を選択 し、優先的に修得 してください。		2							
メディア基礎	2	□			2							
タイポグラフィックデザイン	2	□			2							
イラストレーション	2	□			2							

- ・授業年次は、履修可能最低学年となります。
- ・●は「必修科目」、■は「選択必修科目」、□は「準選択必修科目(優先的に修得する科目)」, その他は「選択科目」。
- ・☆は「建築士受験資格の認定科目」。

Ⅸ 共通専門科目（各学科共通）

1 授業内容について

共通専門教育科目は、芸術プロジェクトをベースにした実践型・参加型の学習形態科目となり、各芸術プロジェクトにおける企業・行政・地域社会、所属学科以外の学生や教員との連携とプロジェクト目標を実現するなかで、思考力や実践力、芸術活動に必要なコミュニケーション力や課題探求力、自己表現力など様々なスキルを身につけ、初年次に全学共通教育科目や各学科の基礎科目で培った「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力をさらに養い発展させる事を目的とした授業です。

2 履修方法と単位について

- ① 全学科の2年生～4年生の学生が横断的に履修できる科目となります。
- ② 共通専門教育科目は、「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」の3科目となり、単位数は各2単位となります。単位については、第Ⅱ群の学科別授業科目となるため、卒業に必要な所属学科の専門科目58単位の中に含まれます。
- ③ プロジェクト型の授業科目となるため、開講学期等は集中授業を予定していますが、年度によって夏期集中や他時期の集中など変更がありますので、各年度の4月のガイダンスやシラバス等で詳細を確認してください。
- ④ プロジェクト内容については、毎年度変更となりますので、4月のガイダンスやシラバス等で詳細を確認してください。

授業科目	単位数	履修方法	授業年次
連携型プロジェクトⅠ	2		2～4
連携型プロジェクトⅡ	2		2～4
連携型プロジェクトⅢ	2		2～4

※開講の有無は年度によって異なります。

IV 第Ⅲ群（各学科共通自由科目）

I 学芸員課程

本学部で学芸員資格取得を希望する者は下記により学芸員課程を履修しなければなりません。
資格取得希望者は履修登録時にLiveCampusの資格課程情報から資格登録をする必要があります。

① 必修科目（卒業単位には含まれません）

年次	科目名(単位数)	
1～3	博物館概論(2) 博物館資料論(2)	合計19単位
	博物館経営論(2) 博物館展示論(2)	
	博物館教育論(2) 博物館情報・メディア論(2)	
	生涯学習概論(2) 博物館資料保存論(2)	
4	博物館実習Ⅰ(2) 博物館実習Ⅱ(1)	

② 選択科目（卒業単位に含まれます）

下表4系列の中から**2系列8単位（各系列最低4単位）**以上を修得してください。

系列	科目名(単位数)
文化史	写真史Ⅰ(2) 写真史Ⅱ(2) 日本映画史Ⅰ(2) 日本映画史Ⅱ(2) 外国映画史Ⅰ(2) 外国映画史Ⅱ(2) ドキュメンタリー映画史Ⅰ(2) ドキュメンタリー映画史Ⅱ(2) 音楽史Ⅰ(2) 音楽史Ⅱ(2) 日本文化史Ⅰ(2) 日本文化史Ⅱ(2) 演劇史Ⅰ(2) 演劇史Ⅱ(2) ラジオ史Ⅰ(2) ラジオ史Ⅱ(2) テレビ史Ⅰ(2) テレビ史Ⅱ(2) デザイン史Ⅰ(2) デザイン史Ⅱ(2) デザイン史Ⅲ(2) 日本建築史(2) 西洋建築史(2)
美術史	美術史概論Ⅰ(2) 美術史概論Ⅱ(2) 美術史概論Ⅲ(2) 美術史概論Ⅳ(2) 美術史概論(2) 工芸概論(2) 西洋美術史Ⅰ(2) 西洋美術史Ⅱ(2) 日本美術史Ⅰ(2) 日本美術史Ⅱ(2)
民俗学	民俗芸能文化論(2) 日本の芸能史(2)
考古学	東アジア世界の考古学Ⅰ(2) 東アジア世界の考古学Ⅱ(2)

③ 博物館実習について

- 博物館実習Ⅰ，博物館実習Ⅱの履修者は，博物館概論，博物館資料論，博物館経営論，博物館展示論，博物館教育論，博物館情報・メディア論，生涯学習概論，博物館資料保存論の単位をすべて修得した者としますが，成績状況等により受講者を制限する場合があります。
- 博物館実習Ⅱは4年次に博物館実習Ⅰの授業受講に併行して，学外実習施設あるいは芸術学部芸術資料館において館務実習を行います。詳細は3年次1月，4年次最初のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。
- 博物館実習Ⅰ，博物館実習Ⅱ履修者は4年次年度始めに実習費を徴収します。詳細は4年次最初のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。

2 司書教諭課程

本学部で司書教諭資格取得を希望する者は、下記により司書教諭課程を履修しなければなりません。資格取得希望者は履修登録時にLiveCampusの資格課程情報から資格登録をする必要があります。

- ① 司書教諭とは、学校図書館法に定められた教諭であり、学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導、さらには、学校図書館の利用指導計画を立案し、実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担います。司書教諭の資格を得るためには、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教諭の免許状（免許の種類・教科は問いません）を取得するとともに、下表の5科目10単位を全て修得しなければなりません。そのため、原則として教職課程履修者のみ司書教諭課程を履修することができます。なお、**司書教諭課程科目は卒業に必要な単位数には含まれません。**

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目		本学部における開講科目			
科目	単位数	授業科目名	単位数	区分	年次
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	必修	2
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	必修	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	必修	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	必修	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	必修	2

- ② 司書教諭の資格は、文部科学省が交付する「司書教諭講習修了証書」によって証明されます。申請方法等の詳細については6月ごろに掲示でお知らせしますので必ず確認してください。

3 司書課程

本学部で司書資格取得を希望する者は、下記により司書課程を履修しなければなりません。

資格取得希望者は履修登録時にLiveCampusの資格課程情報から資格登録をする必要があります。

司書とは、図書館法に定められた、都道府県や市町村の公立図書館等で図書館資料の選択、発注及び受け入れから、分類、目録作成、貸出業務、読書案内などを行う専門的職員です。司書資格の取得を希望する者は、下表の13科目24単位を全て修得しなければなりません。なお、**司書課程科目は卒業に必要な単位数には含まれません。**

法令上の科目		本学部における開講科目			
科目名	単位数	授業科目名	単位数	区分	年次
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	必修	1
図書館概論	2	図書館概論	2	必修	2
図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	必修	2
図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	必修	3
図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	必修	2
情報サービス論	2	情報サービス論	2	必修	2
児童サービス論	2	児童サービス論	2	必修	2
情報サービス演習	2	情報サービス演習	2	必修	3
図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	必修	2
情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	必修	2
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	2	必修	3
図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	1	必修	3
図書館総合演習	1	図書館総合演習	1	必修	3

※ 「生涯学習概論」は司書課程と学芸員課程との共通科目となります。

V 教職課程

1 本学部で教育職員免許状取得を希望する者は、下記により教職課程を履修しなければなりません。免許状取得希望者は履修登録時にLiveCampusの資格課程情報から資格登録をする必要があります。

2 免許教科の種類

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------------|
| ① 中学校教諭一種免許状
国語
音楽
美術 | ② 高等学校教諭一種免許状
国語
音楽
美術
工芸 |
|--------------------------------|---------------------------------------|

3 免許状の種類及び本学部における必要修得単位数

A表

免許状の種類	所要資格	基礎資格	① 基礎必修科目 (B表)	教科及び教職に関する科目		
				② 教育の基礎的理解 に関する科目 (C表)	③ 教科及び教科の 指導法に関する科目 (D表)	②+③の合計
中学校一種免許状	学士の学位を有すること		8単位以上	28単位	31単位以上	59単位以上
高等学校一種免許状	学士の学位を有すること		8単位以上	24単位	35単位以上	59単位以上

4 単位の修得方法

① 基礎必修科目

基礎必修科目として「日本国憲法」(2)「体育」(2)「外国語コミュニケーション」(2)「情報機器の操作」(2)計8単位を修得する必要があります。本学部における基礎必修科目はB表のとおりです。

B表 基礎必修科目

法令で定める基礎必修科目(単位数)	本学部における基礎必修科目(単位数)	最低修得単位	計
日本国憲法(2)	日本国憲法(2)	2	8
体育(2)	健康・スポーツ科学(2) 体育実技I~VI(各1)	2	
外国語コミュニケーション(2)	英語Ⅲ・Ⅳ(各1) ドイツ語Ⅲ・Ⅳ(各1) フランス語Ⅲ・Ⅳ(各1) イタリア語Ⅲ・Ⅳ(各1) 中国語Ⅲ・Ⅳ(各1) 日本語Ⅲ・Ⅳ(各1)	2	
情報機器の操作(2)	情報I(2) 情報II(2)	2	

② 教育の基礎的理解に関する科目等

教育の基礎的理解に関する科目等の本学部における最低修得単位数はC表に示すとおりです。教育職員免許法施行規則上の修得単位数と全く同じで余剰がありません。全科目必修で28単位修得しなければなりません。C表の教育の基礎的理解に関する科目等は卒業に必要な単位数には含まれません。

C表 本学部における教育の基礎的理解に関する科目等の単位数

年次	必修科目 (単位数)	単位数合計	
		中一種	高一種
1	○教育原論 (2) ○現代教職論 (2) ○教育の社会学 (2) ○教育課程論 (2)	8	8
2・3	○発達と学習 (2) ○特別支援教育概論 (1) ⊕ <u>道德教育の理論と方法 (2)</u> ○特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (2) ○教育の方法・技術論 (2) ○生徒指導・進路指導論 (2) ○教育相談 (2)	13	11
4	○教育実習事前・事後指導 (1) ※1 ⊕ <u>教育実習 I (4)</u> 又は ○教育実習 II 〈高免のみの者〉 (2) } ※2 ○教職実践演習 (中・高) (2)	7	5
	計	28	24

C表の⊕中は、中学校一種免許状取得希望者の必修科目で、高等学校一種免許状のみの取得希望者は修得する必要はありません。

(※1) 教育実習事前・事後指導 (1) は4年次配当科目ですが、3年次の6月及び11月に教育実習事前指導として特別講義が行われます。これに出席することで4年次に教育実習事前・事後指導 (1) を登録することができます。3年次の教職用掲示に注意してください。

(※2) 教育実習は4年次に行います。条件は以下のとおりです。

- ①卒業見込者であること
- ②原則として4年次配当科目の「教職実践演習 (中・高)」, 「教育実習事前・事後指導」, 「教育実習 I」又は「教育実習 II (高免のみの者)」以外の「教育の基礎的理解に関する科目等」を修得済であること。
- ③「教科及び教科の指導法に関する科目」について、中学・高校免許取得希望者は「各科教育法 I～IV」, 高校免許のみ取得希望者は「各科教育法 I・II」を修得済であること。教育実習校は2・3年次中に決定します。詳細についてはガイダンスで説明しますので必ず出席してください。

なお、美術学科・デザイン学科の学生で高等学校一種工芸免許状を取得予定の者は、「工芸」での教育実習の受入れ先が少ないため、「美術」での教育実習の受入れ先を探すことを推奨します。

③ 教科及び教科の指導法に関する科目

修得すべき教科及び教科の指導法に関する科目は免許教科によって違いがあります。教科別に表示するとD表のようになります。本学部においては、D表中より○印を付した必修科目を含め中・高一種免許状は31単位以上（国語は35単位以上）、高等学校一種免許状のみは35単位以上修得しなければなりません。

(注1) D表中の最低修得単位とは法律上（免許法施行規則）によるものであり、本学部における修得単位数とは異なりますので、注意してください。

(注2) D表中の 印は美術学科・文芸学科の教職教科部門に属する科目（シラバス・時間割の教職欄記載科目）で、教職免許を取得するための科目であり、卒業単位には含まれません。

(注3) D表中の、国語科教育法、音楽科教育法、美術科教育法、工芸科教育法などは、免許状を取得しようとする教科についての教育法の科目です。Ⓜは、中学校一種免許状取得希望者の必修科目です。また、教育法の科目は卒業に必要な単位には含まれません。

D表 教科及び教科の指導法に関する科目の単位数

免許教科	学科	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位	芸術学部開講科目	
					科目名(単位数)	
国語	文芸学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1	○国語学Ⅰ(2) ○国語学Ⅱ(2) 小説論Ⅰ(2) 小説論Ⅱ(2) 文芸創作論Ⅰ(2) 文芸創作論Ⅱ(2) 文芸創作論Ⅲ(2) 文芸創作論Ⅳ(2)
				国文学 (国文学史をを含む。)	1	○国文学Ⅰ(2) ○国文学Ⅱ(2) 古典文学史Ⅰ(2) 古典文学史Ⅱ(2) 現代文学史Ⅰ(2) 現代文学史Ⅱ(2) 児童文学論Ⅰ(2) 児童文学論Ⅱ(2) 文芸批評論Ⅰ(2) 文芸批評論Ⅱ(2) 日本文化史Ⅰ(2) 日本文化史Ⅱ(2) 作家作品論Ⅰ(2) 作家作品論Ⅱ(2)
				漢文学	1	○漢文学Ⅰ(2) ○漢文学Ⅱ(2) 漢文学史Ⅰ(2) 漢文学史Ⅱ(2)
				書道 (書写を中心とする。)	1	Ⓜ書道Ⅰ(2) Ⓜ書道Ⅱ(2)
				各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○国語科教育法Ⅰ(2) ○国語科教育法Ⅱ(2) Ⓜ国語科教育法Ⅲ(2) Ⓜ国語科教育法Ⅳ(2)

※網掛けの各科目に含めることが必要な事項「書道」については、中学校一種国語のみ必修科目のため、高等学校一種国語の必要修得単位数には含まれません。

免許教科	学科	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位	芸術学部開講科目
					科目名(単位数)
音楽	音楽学科	教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	1	○ソルフェージュⅠ(1) ○ソルフェージュⅡ(1) ○ソルフェージュⅢ(1) ○ソルフェージュⅣ(1)
			声乐 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	1	○合唱Ⅰ(1) ○合唱Ⅱ(1) ○声乐Ⅰ(2) ○声乐Ⅱ(2) 又は ○副科声乐Ⅰ(1) ○副科声乐Ⅱ(1) ○音楽教材演習Ⅰ(1) ○音楽教材演習Ⅱ(1) 声乐Ⅲ(2) 声乐Ⅳ(2) 副科声乐Ⅲ(1) 副科声乐Ⅳ(1) 合唱Ⅲ(1) 合唱Ⅳ(1)
			器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	1	○伴奏法Ⅰ(1) ○伴奏法Ⅱ(1) ○教育用楽器等合奏法Ⅰ(1) ○教育用楽器等合奏法Ⅱ(1) ○ピアノⅠ(2) ○ピアノⅡ(2) 又は ○副科ピアノⅠ(1) ○副科ピアノⅡ(1) 伴奏法Ⅲ(1) 伴奏法Ⅳ(1) 弦楽器Ⅰ(2) 弦楽器Ⅱ(2) 弦楽器Ⅲ(2) 弦楽器Ⅳ(2) 副科弦楽器Ⅰ(1) 副科弦楽器Ⅱ(1) 管打楽器Ⅰ(2) 管打楽器Ⅱ(2) 管打楽器Ⅲ(2) 管打楽器Ⅳ(2) 副管打楽器Ⅰ(1) 副管打楽器Ⅱ(1) ピアノⅢ(2) ピアノⅣ(2) 副科ピアノⅢ(1) 副科ピアノⅣ(1)
			指揮法	1	○指揮法演習Ⅰ(1) ○指揮法演習Ⅱ(1)
			音楽理論、作曲法(編曲法を含む。)及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	1	○音楽学Ⅰ(2) ○音楽学Ⅱ(2) ○作曲Ⅰ(2) ○作曲Ⅱ(2) 又は ○副科作曲Ⅰ(1) ○副科作曲Ⅱ(1) ○音楽史Ⅲ(1) ○音楽史Ⅳ(1) 音楽学Ⅲ(2) 音楽学Ⅳ(2) 音楽形式学Ⅰ(2) 音楽形式学Ⅱ(2) 音楽史Ⅰ(1) 音楽史Ⅱ(1) 作曲Ⅲ(2) 作曲Ⅳ(2)
			各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○音楽科教育法Ⅰ(2) ○音楽科教育法Ⅱ(2) Ⓜ音楽科教育法Ⅲ(2) Ⓜ音楽科教育法Ⅳ(2)

免許教科	学科	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位	芸術学部開講科目	
					科目名(単位数)	
美術	美術学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	絵画 (映像メディア表現を含む。)	1	○デッサン(1) ○デザイン論(2)
				彫刻	1	○彫塑(1)
				デザイン (映像メディア表現を含む。)	1	○美的構成研究Ⅰ(2) ○美的構成研究Ⅱ(2) ○映像メディア研究(1) ○版画基礎(1)
				工芸	1	○美術教材研究Ⅰ(2) 又は美術教材研究Ⅱ(2) 工芸演習(2) 美術作品研究Ⅰ(2) 美術作品研究Ⅱ(2) 美術作品研究Ⅲ(2) 美術作品研究Ⅳ(2)
				美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	1	○美術学Ⅰ(2) ○美術学Ⅱ(2) ○美術史概論Ⅰ(2) ○美術史概論Ⅱ(2) ○美術史概論Ⅲ(2) ○美術史概論Ⅳ(2) ○日本美術史Ⅰ(2) ○日本美術史Ⅱ(2) 古美術研究Ⅰ(2) 古美術研究Ⅱ(2) 西洋美術史Ⅰ(2) 西洋美術史Ⅱ(2)
			各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○美術科教育法Ⅰ(2) ○美術科教育法Ⅱ(2) Ⓜ美術科教育法Ⅲ(2) Ⓜ美術科教育法Ⅳ(2)	
	デザイン学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	絵画 (映像メディア表現を含む。)	1	○ドローイングⅠ(2) ○カラー&コンポジション(2) ○スタイル&フォーム(2)
				彫刻	1	○マテリアル&コンストラクション(2) ○デザインフィールドワークショップ(2)
				デザイン (映像メディア表現を含む。)	1	○デザイン論Ⅰ(2) ○デザイン論Ⅱ(2) ○ベーシックデザインワークショップ(2) グラフィックデザインⅡ(2) エディトリアルデザイン(2) プロダクトデザインⅠ(2) プロダクトデザインⅤ(2) スペースデザインⅠ(2) スペースデザインⅡ(2)
				工芸	1	グラフィックデザインⅣ(2) プロダクトデザインⅡ(2) プロダクトデザインⅥ(2) フォトグラフィ(2) スペースデザインⅢ(2) スペースデザインⅣ(2) アーキテクチャデザインⅠ(2) アーキテクチャデザインⅡ(2)
美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)				1	○美術学Ⅰ(2) ○美術学Ⅱ(2) ○美術史概論(2) ○工芸概論(2) 日本建築史(2) 西洋建築史(2) デザイン論Ⅳ(2) デザイン史Ⅰ(2)	
		各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○美術科教育法Ⅰ(2) ○美術科教育法Ⅱ(2) Ⓜ美術科教育法Ⅲ(2) Ⓜ美術科教育法Ⅳ(2)		

※網掛けの各科目に含めることが必要な事項「工芸」については、中学校一種美術のみ必修科目のため、高等学校一種美術の必要修得単位数には含まれません。

免許教科	学科	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位	芸術学部開講科目	
					科目名(単位数)	
工 芸	美術学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	図法及び製図	1	○図学(2)
				デザイン	1	○美的構成研究Ⅰ(2) ○美的構成研究Ⅱ(2) ○版画基礎(1)
				工芸制作 (プロダクト制作を含む。)	1	○美術教材研究Ⅰ(2)又は美術教材研究Ⅱ(2) ○工芸演習(2) 彫塑(1)
				工芸理論、デザイン理論 及び美術史(鑑賞並びに 日本の伝統工芸及びアジア の工芸を含む。)	1	○デザイン論(2) ○美術作品研究Ⅰ(2) ○美術作品研究Ⅱ(2) ○美術作品研究Ⅴ(2) ○美術作品研究Ⅵ(2) 美術史概論Ⅰ(2) 美術史概論Ⅱ(2) 美術史概論Ⅲ(2) 美術史概論Ⅳ(2) 日本美術史Ⅰ(2) 日本美術史Ⅱ(2)
				各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○工芸科教育法Ⅰ(2) ○工芸科教育法Ⅱ(2)
	デザイン学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	図法及び製図	1	○図学Ⅰ(2) ○製図Ⅰ(2)
				デザイン	1	○ベーシックデザインワークショップ(2) グラフィックデザインⅡ(2) エディトリアルデザイン(2) プロダクトデザインⅠ(2) プロダクトデザインⅤ(2) スペースデザインⅠ(2) スペースデザインⅡ(2)
				工芸制作 (プロダクト制作を含む。)	1	○コミュニケーションデザインⅤ(2) ○コミュニケーションデザインⅥ(2) 又は ○プロダクトデザインⅡ(2) ○プロダクトデザインⅣ(2) 又は ○アーキテクチャデザインⅡ(2) フォトグラフィ(2) グラフィックデザインⅣ(2) グラフィックデザインⅤ(2) プロダクトデザインⅥ(2) プロダクトデザインⅧ(2) スペースデザインⅣ(2) アーキテクチャデザインⅠ(2)
				工芸理論、デザイン理論 及び美術史(鑑賞並びに 日本の伝統工芸及びアジア の工芸を含む。)	1	○デザイン論Ⅰ(2) ○デザイン論Ⅱ(2) ○美術史概論(2) ○工芸概論(2) タイポグラフィ論(2) エルゴノミックデザイン概論(2) プランニングⅠ(2)
				各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○工芸科教育法Ⅰ(2) ○工芸科教育法Ⅱ(2)

5 介護等体験について

中学校の教育職員免許状取得希望の者(高等学校のみは除く)は、取得条件として、7日間の介護等体験(社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間)が義務づけられています。

本学部では、介護等体験は2年次生以上を対象に実施しています。詳細は新年度最初の2年次生対象ガイダンスで説明しますので必ず出席してください。また、体験費の徴収日時についてもガイダンスで説明します。

なお、教職課程についてのガイダンスは、原則として在学生ガイダンス期間中に行いますので、日程などは、教務課掲示に注意し、不明な点は、教務課に問い合わせてください。

6 教育職員免許状一括申請について

最終学年に本学がまとめて授与権者である東京都教育委員会に申請します。4年次の始めに申請の申込み、翌年1月に申請内容の確認・申請料納入手続きなどを行います。詳細は4年次最初のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。